

2021 年度 自動車リサイクルの高度化等に資する
調査・研究・実証等に係る助成事業
事業名：自動車リサイクルの現場を活用した周知活動

報告書

2022 年 3 月 31 日

NPO 法人 RUM アライアンス

担当者連絡先

担当者名：鳥本俊和

部 門：事務局

電話番号：03-6215-8222

メールアドレス：secretariat@rum-alliance.com

はじめに

本事業は、自動車リサイクルを一般の方々や次世代を担う全国の小中高生に広く知っていただくことを目的とする。

現状では自動車リサイクル業の存在を知る一般の方は少ない。愛車の使用後に関心を持つ人も少ない。リサイクル事業を営む者にとって、自動車リサイクルの周知は自らの仕事と意義を知っていただく活動にもなる。そこで「自動車リサイクルの現場を活用した周知活動」として、リサイクル現場及び SNS を通じて、使用済み自動車の適正処理とリサイクル、資源の有効利用を広く周知する事業を提案するに至った。

NPO 法人 RUM アライアンス（以下、RUM）は、自動車リサイクルの現場を担う事業者が 2005 年に設立し、以来、不特定多数の個人及び団体に対する自動車リサイクルの社会教育活動と広報活動を事業として取組み、また静脈産業として都市鉱山からの資源循環の一端を担う事業活動を続けている。

会員の中には 10 年も前から広報活動の一環として工場見学の受入れに取組み、リサイクル現場を通して周知活動に取り組んでいる会員もある。RUM はこれを手本に見学の受入れを開始し、2019 年には 9 社が取組に参加している。

リサイクルの周知方法はいろいろあると思うが、感動を持って理解していただけるのは工場見学の機会によると確信している。現に、見学に訪れた方からは「知らなかった」「感動した」「未来に役立つ仕事」等の感想が寄せられる。こうした取組を業界に広げるため RUM は一般社団法人日本自動車リサイクル機構（以下、JAERA）の協力を得て、SNS を通じて自動車リサイクルを見える形で周知し、見学の希望を喚起し、希望者に受入企業を紹介する 3 か年の活動を提案した。プロセスの概要は以下の通り。

初年度は、工場見学過程を動画に作成し、YouTube と SNS での発信を行いつつ、一般の参加希望者や学校関係者などと受入可能な自動車リサイクル企業とをマッチングさせるサイトを作り、受入企業 20 社を目標とする。

2021 年度は、2020 年度の取組を継続しつつ、受入企業を 50 社まで増加する。

そして最終年度では受入企業を 100 社に増やし、更に 2 万人の見学者をリサイクル工場にお迎えできるようにする。

本事業開始の 2020 年 4 月以降、新型コロナウイルス感染症対策のための緊急事態宣言等により工場見学は勧誘も受入れも困難となった。こうした状況に鑑みて新たにオンライン見学（バーチャル見学）方式による見学を実施すると共に、上記の目標数値を見直した。

目次

1. 助成事業の計画	1
1.1. 自動車リサイクル業界における事業の背景	1
1.2. 助成事業の実施内容・事業の位置づけ	1
1.2.1. 助成事業の実施内容	2
1.2.2. 事業の実施体制.....	7
1.2.3. 2021 年度事業の実施スケジュール（工程表）	9
2. 助成事業の報告	10
2.1. 助成事業実施結果.....	10
2.1.1. 自動車リサイクル周知分科会	10
2.1.2. 受入企業の増加とサイトの活用	11
2.1.3. 継続 WEB 関係作業（サイト、SNS（Facebook）、動画（YouTube））	15
2.1.4. 月次見学受入実績集計	19
2.1.5. 顧客満足度を高める取組	20
2.1.6. 受入担当者研修、意見交換会	22
2.2. 2021 年度実施結果を踏まえた考察	26
2.2.1. 2021 年度事業の効用	26
2.2.2. 現状の課題と想定される解決方法.....	27
3. 2022 年度以降の助成事業の展開	30
3.1. 想定する事業の内容	30
3.1.1. これから取組む事業の内容	30
3.2. 事業の実施体制	32
3.3. 実施スケジュール.....	33
3.4. 資金計画	34

資料編

添付資料

- 1 サイトの案内と情報掲載の依頼状（図 2-1）
- 2 サイト案内チラシ（図 2-2）
- 3 教育委員会へのサイトの案内状（図 2-3）
- 4 ポスター用制作データ（図 2-9）
- 5 意見交換会案内（図 2-10）
- 6 受入担当者研修第 1 回案内（図 2-11）
- 7 受入担当者研修第 2 回案内（図 2-12）
- 8 意見交換会第 2 回案内（図 2-13）
- 9 工場見学受入 10 年超の企業の予約数、実施数、キャンセル数一覧

1. 助成事業の計画

1.1. 自動車リサイクル業界における事業の背景

自動車リサイクル業種を知る一般の方は少ない。また、愛車の使用後に関心を持つ方も少ない。リサイクル事業を営む者にとって、自動車リサイクルの周知は自らの事業の存在と意義を知っていただく活動になる。現に、工場見学の機会を持った方からは「知らなかった」「感動した」「未来に役立つ仕事」等の感想が寄せられている。

一方、インターネットで「自動車リサイクル工場見学」と検索すると、業界団体、企業のWEBサイトがランダムに表れ、見学希望者の迷いを誘う状態になっており、交通整理の必要がある。

RUM では、自動車リサイクル周知のためには「百聞は一見に如かず」で、リサイクル現場を活用した活動が効果的で、現場見学がスムーズに行われる取組が重要と考えている。

現在小学校高学年では社会科の授業で日本の自動車工業が取り上げられており、自動車リサイクルについても学んでいる。工場見学には、こうした小学生のような次世代を担う団体や地域の一般消費者を含む諸団体の来訪があり、極めて重要な周知活動になっている。

1.2. 助成事業の実施内容・事業の位置づけ

RUM の会員は、10 年前から工場見学受入を開始し、2019 年では見学者数は 115 団体、3,446 名（この内、小中学生は 34 団体 2,746 名）となっている。（表 1-1 参照）

表 1-1 最近の工場見学者数（RUM 会員企業）

2019 年（9 社計）	115 団体、3,446 人（内・小中学生 34 団体、2,746 人、80%）
2018 年（6 社計）	70 団体、3,703 人（内・小中学生 37 団体、3,055 人、83%）

こうした取組を業界に広げるため RUM は JAERA の協力を得て、SNS を通して自動車リサイクルが見える形で周知し、見学の希望を喚起し、希望者と受入企業をマッチングする活動を提案した。SNS を通して自動車リサイクルに関心を持ち、更に工場見学も希望する方とのマッチングを支援するサイト（プラットフォーム）を設け、見学希望の地域にある受入企業を見つけることのできる解りやすいサイトを設け、工場見学が業界の周知活動の主力になるよう 3 か年計画で提案した。

工場見学者は、最近のデータでは表 1-1 の通り小中学生が多く（2019 年 80%、2018 年 83%）、こうした状況を踏まえることも周知活動にとり必要と考える。

一方、受入企業の側では、見学者の安全第一の下で受入体制を整備し、見学者の要望を満たす取組が重要になっている。

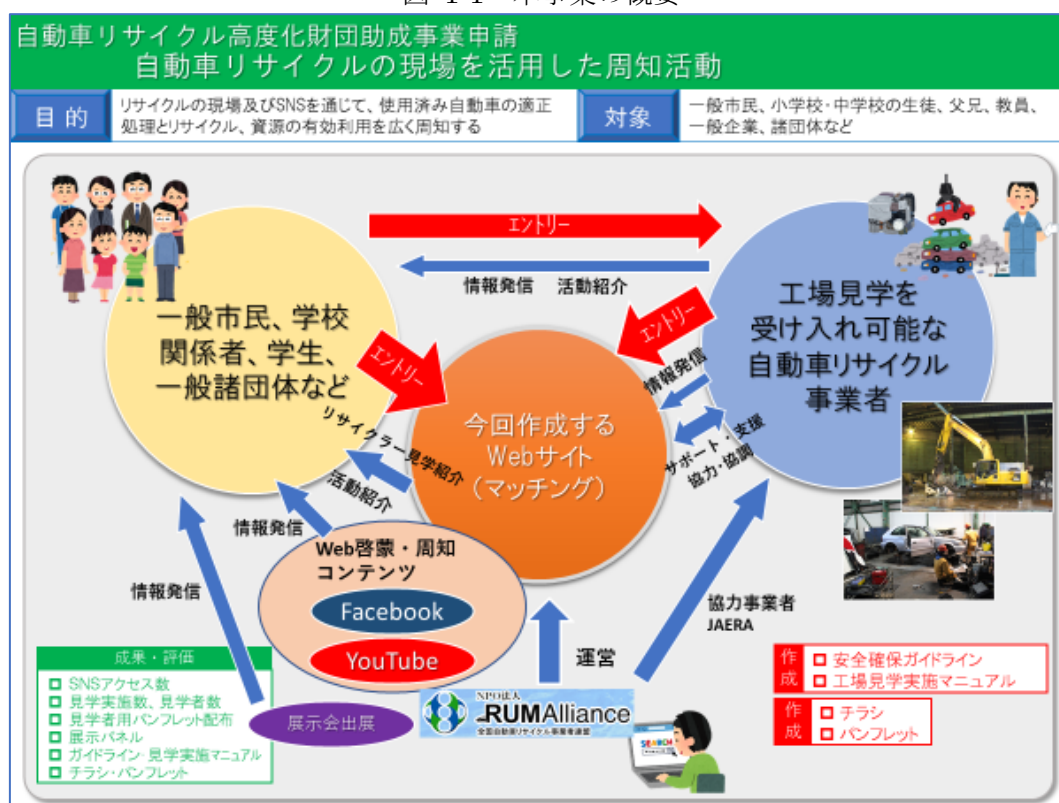
1.2.1. 助成事業の実施内容

(1) 3年間の事業計画概要

本事業は、業界最大団体である JAERA の協力を得て、見学受入企業の情報を一元化し、日本各地からの見学希望者と受入企業とのマッチングのための専用 WEB サイト（プラットフォーム）を設け、見学者のニーズに沿う学びにつながる活動を 2020 年度から 2022 年度の 3 か年で実施する。

図 1-1 に本事業の概要を示す。

図 1-1 本事業の概要



2020 年度（初年度）

2020 年度の事業は、工場見学の過程を動画に作成すると共に、工場見学を受入れる企業の情報を掲載する WEB サイト（以下、サイト）を設けて、SNS を通して周知する。サイト上の見学受入企業数をまず 20 社とする。

2021 年度（2 年目）

2021 年度は 2020 年度の取組を継続しつつ、2020 年度作成物等の維持、修正、管理と受入態勢の充実を図る。

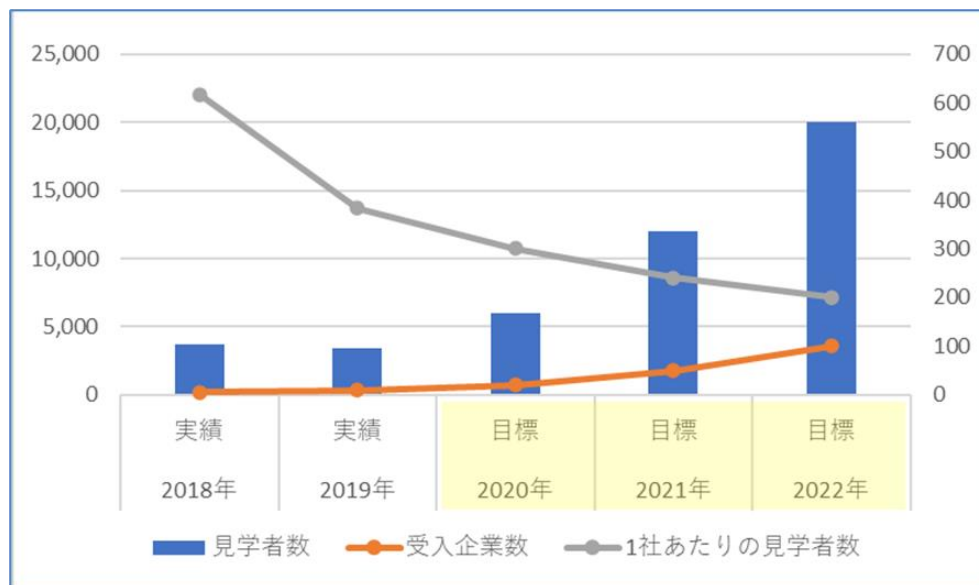
- ① 2020 年度の制作物等の維持、修正と追加に努める。
- ② サイトと SNS の運営と管理を継続すると共に、サイトの利用を呼びかけるチラシを作成する。
- ③ 見学受入企業の増加を図り、サイトの工場マップに加える。
(目標社数、2020 年度+2021 年度増加=50 社)
- ④ 新たに見学受入を開始する企業の担当者を中心に集合研修を実施する。(年 2 回)
- ⑤ 見学時の説明に使うパネルを作成する。

2022 年度 (3 年目)

工場見学受入企業 100 社超を目指し、47 都道府県の各々で 2 社以上を実現する。この目標に向かい WEB のコンテンツ等を見直し、修正する。見学者数年間 2 万人以上を目指す。

図 1-2 に本事業前 2 年間の見学実績数と本事業 3 か年計画の見学者数の目標を示す。

図 1-2 見学者数・受入企業数の推移と目標



事業年度	2018 年 実績	2019 年 実績	2020 年 目標	2021 年 目標	2022 年 目標
見学者数	3,703	3,446	6,000	12,000	20,000
受入事業者数(企業数)	6	9	20	50	100
1 社あたりの見学者数	617	383	300	240	200

(2) 2020 年度の活動と実績

2020 年度に取組んだ主要作業は以下の 7 項目で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて計画より 6 ヶ月遅れる作業もあったが、全て年度内に完了することができた。

- ① 自動車リサイクル周知分科会
各月 1 回の開催計画を増やして 14 回開催した。
- ② 工場見学受入調査と受入企業の工場マップの作成
自動車リサイクル業界において工場見学を受入れる企業数を調査し、受入企業の下承

の下、新たに制作したサイトの工場マップに 17 企業 21 工場を登録した。

また、工場見学受入企業の数を増やすために、見学受入を呼びかける手引きを作成し、見学受入のメリット、受入手順等を収録した。付属資料として感染症対応の動画とガイドラインを制作した。

③ WEB 関係 3 作業

YouTube に収納する動画 3 本を制作し、見学希望者と受入企業のマッチングサイトを制作した。また SNS として Facebook を採用した。

④ 見学者に渡す小冊子の作成

小冊子「自動車リサイクルの話をしよう」を 5,000 部作成し、見学受入企業へ配布した。

⑤ 工場見学受入実績集計と回収

集計用の月次報告様式を作成した。

2020 年度の見学来訪者数は 1,702 名だった。

⑥ 工場見学受入担当者スキルアップ研修

2021 年 1 月に 1 回実施した。

⑦ その他

自動車リサイクル高度化財団（以下、高度化財団）への各種報告の提出とオンラインによる打合せの会合に参加した。

(3) 受入企業数及び見学者数の目標数値の見直しとその理由

2020 年度の事業結果及び社会情勢等をふまえ、2021 年度以降は以下の通り提案時計画の目標数の見直しを申し出承認された。

【当初計画】

2021 年度

サイトの受入企業数の目標 50 社

見学者数：12,000 人

2022 年度

サイトの受入企業数の目標 100 社

見学者数：20,000 人



【変更計画】

2021 年度

サイトの受入企業数の目標 25 社以上

見学者数：6,000 人

2022 年度

サイトの受入企業数の目標 50 社以上

見学者数：10,000 人

見直しの主な理由

- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止政策に伴う外出自粛
- ・ 受入企業の感染防止対策としての見学自粛

(4) 2021 年度以降の活動の留意点

- ・ 2021 年度の見学受入企業の開拓は、JAERA 会員への 2020 年度調査で現在受入れを中止している企業等に限定して呼びかけを実施し、延べ 25 社以上とする。見学者数は、オンライン見学（バーチャル見学）^(注)に加えて、オンライン説明での出張講演を含む数

にする。

(注) 以後、オンライン見学（バーチャル見学）の用語を使用する。

- ・ これまでの実績から工場見学の団体見学者は、教員に引率された小中学生が 80%以上を占めており、教育関係者への呼びかけ、特に社会科学研究部会の先生方に案内を続けて、見学者数の積み上げを目指す。

表 1-2 3 か年計画の見学者数の修正目標

事業年度	2020 年 実績	2021 年 目標	2022 年 目標
見学者数	1,702	6,000	10,000
受入事業者数(企業数)	17	25	50

(5) 2021 年度（2 年目）の事業概要

1 年目（2020 年度）の事業で明らかになった課題

- ・ 新型コロナウイルス感染症の広がり、緊急事態宣言等の発令により、見学者のキャンセルがあり、受入企業は受入れを控えることとなった。
- ・ 制作したサイトの活用のためには、見学希望者がメールで直接企業担当者に問合せができるようにすることと、オンラインによる見学もできることを知らせる必要がある。
- ・ サイトの周知が十分にされていない。

2 年目（2021 年度）の解決のための取組

- ・ サイトを改良し、直接受入企業担当者に申込みできるフォームを作る。
- ・ オンライン見学（バーチャル見学）に対応するページをサイトに設ける。
- ・ サイトの紹介チラシを作成し、見学主要団体の教育関係者に送付し周知を図る。

(6) 2021 年度作業項目と取組計画

2021 年度は前年の課題の解決を優先にサイトの活用を目指し、具体的には以下の①～⑦の項目に取組む。

① 自動車リサイクル周知分科会開催

- ・ 2021 年度は 5 回開催する。

② 受入企業の増加とサイトの活用

見学受入企業開拓、呼びかけ

- ・ サイト工場マップへの登録企業を都道府県レベルに展開できる社数を目指す。
- ・ 現在コロナで見学中止の企業へ再開を呼びかける。
- ・ 業界の事業協同組合の会員で工場見学を受入れている企業に参加を呼びかける。
- ・ サイト上のマップの受入企業数を 25 社以上にする。

教育関係者への呼びかけ、チラシ作成・送付

- ・ 教育関係者への見学来訪呼びかけは教育委員会を通して行う。
- ・ オンライン見学（バーチャル見学）についての案内チラシを制作し、教育関係者に送付する。

- ③ 継続 WEB 関係作業（サイト、SNS（Facebook）、動画（YouTube））
 - ・ サイトへオンライン見学（バーチャル見学）対応の機能を加える。
 - ・ Facebook に定期的に情報をアップする体制を整える。
 - ・ 動画（YouTube）は視聴回数を注視し、顕著な変化があればその要因を検討する。
- ④ 月次見学受入実績集計
 - ・ 工場見学者数、YouTube、サイトの訪問者数等を集計し記録する。
 - ・ 新規に参加した企業からの要望等に対応する。
- ⑤ 顧客満足度を高める取組
 - ・ サイトを通じた質問等に対応する。
 - ・ 受入担当者からの疑問や相談に対応し解決を図る。
 - ・ データを図表化したパネルを制作し、見学者に自動車リサイクルの説明をする際に、補助資料として使えるようにする。
 - ・ 見学受入の手引きを修正し必要に応じて増刷する。
 - ・ 2020 年度制作の小冊子を増刷する。オンライン見学（バーチャル見学）、オンライン講話には事前に送付する。
- ⑥ 受入担当者研修、意見交換会
 - ・ 年 2 回開催する。（上期 7 月、下期 11 月）
- ⑦ その他
 - ・ 高度化財団への月次報告、報告会資料と報告書などの作成。各種の問い合わせに対応。

1.2.2. 事業の実施体制

2021 年度の本事業実施体制は、2020 年度に引き続き RUM 自動車リサイクル周知分科会（リーダー近藤高行・会宝産業㈱代表取締役）を中心に構成し、2022 年 3 月現在の委員は次の通り。

表 1-3 RUM 自動車リサイクル周知分科会 委員

委員	所属・役職	地域
近藤高行	会宝産業 代表取締役	石川
伊地知志郎	オートパーツ伊地知 代表取締役	鹿児島
久保田泰規	久保田オートパーツ 代表取締役	宮崎
赤須洋一郎	カーレボ 代表取締役	茨城
池本 篤	ナプロアース 代表取締役	福島
中島紀晃	オートリサイクルナカシマグループ 取締役副社長	福岡
岡本裕臣	ヤマコー 執行役員会	広島
浜田篤介	浜田 代表取締役	大阪
伊藤孝雄	KMI 代表取締役	岐阜
梅本静馬	国際環境政策研究所	東京
(事務局員)	RUM アライアンス	東京

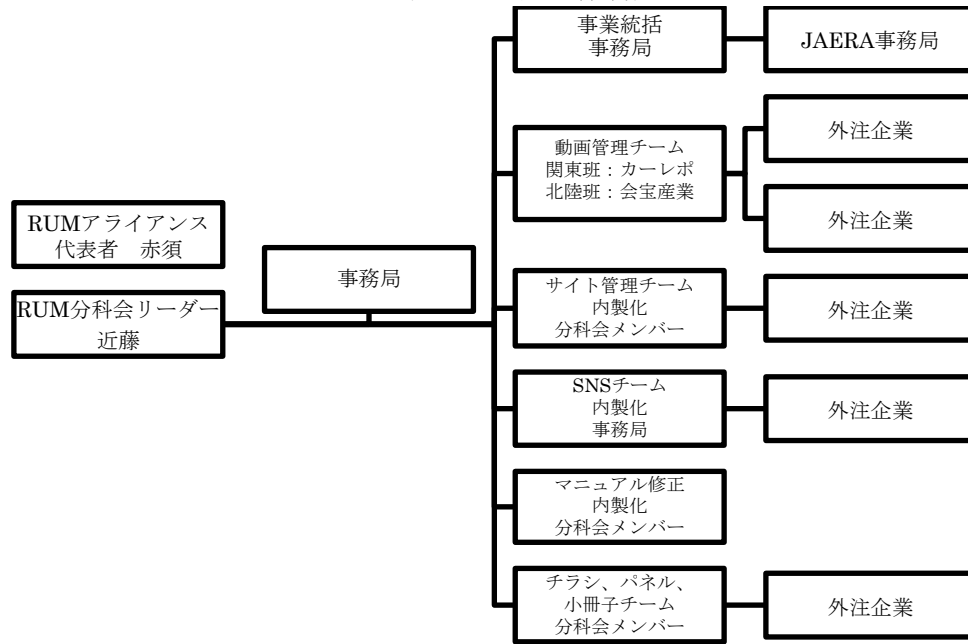
*事務局（2 名＋α、αは会員企業からの人的支援）

本事業は 3 年間の継続事業を想定しており、2021 年度も主要な 7 項目の作業①～⑦に対し、分科会委員が分担することにした。図 1-3 に実施体制を示す。

2021 年度の RUM アライアンス自動車リサイクル周知分科会の担当作業
(敬称略)

- ① 自動車リサイクル周知分科会：近藤、事務局
- ② 受入企業の増加とサイトの活用：赤須、事務局
- ③ 継続 WEB 関係作業
(動画、サイト)：池本、赤須（関東）、近藤（北陸）、事務局
(SNS)：赤須（小林、事務局）
- ④ 月次見学受入実績集計：事務局
- ⑤ 顧客満足度を高める取組：事務局
- ⑥ 受入担当者研修、意見交換会：久保田、事務局
- ⑦ 報告書検討チーム：赤須、近藤、梅本、事務局

図 1-3 実施体制図



1.2.3. 2021 年度事業の実施スケジュール（工程表）

＊事業実施工程に関して

提案時計画（当初計画）を黄色

実績を青で表示。

図 1-4 2021 年度工程表

作業項目		計画/実績	3月末 進捗率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	自動車リサイクル周知 分科会開催	提案時計画	100%												
		実績													
② 受入企業の増加とサイトの活用															
	見学受入企業開拓 (呼びかけ)	提案時計画	100%												
		実績													
	教育関係者への呼び かけ、チラシ作成、送 付	提案時計画	100%												
		実績													
③	継続WEB関係作業 (サイト、SNS、動画)	提案時計画	100%												
		実績													
④	月次見学受入実績集 計	提案時計画	100%												
		実績													
⑤ 顧客満足度を高める取組															
	見学受入の対応	提案時計画	100%												
		実績													
	パネル制作、手引きの 修正	提案時計画	100%												
		実績													
	小冊子の増刷と配布	提案時計画	100%												
		実績													
⑥	受入担当者研修、意 見交換会	提案時計画	100%												
		実績													
⑦ その他		提案時計画	100%												
		実績													

2. 助成事業の報告

2.1. 助成事業実施結果

2021 年度に 2 年目を迎えた本事業は、2020 年度と同じくスタートの 4 月から 9 月末まではコロナ禍対応の緊急事態宣言、まん延防止等重点措置により外部への呼びかけを控えるを得なかったが、オンライン見学（バーチャル見学）で活動を続けてきた。

2021 年度の主要作業 7 項目の内その他（高度化財団への報告、連絡など）を除く 6 項目の取組状況と結果を以下に報告する。

2.1.1. 自動車リサイクル周知分科会

(1) 目的

本事業を担う中心組織で事業の計画から進捗管理を行う。

(2) 実施計画

分科会を 2022 年 3 月までに 5 回開催する。

(3) 進捗状況

開催日程と参加者数、決定事項は次の表の通り。

表 2-1 分科会の開催

開催日	WEB 会議 で開催	参加者	概要
4 月 14 日	第 1 回	9 名	・ 2020 年度第 14 回分科会以降の動きの報告 ・ 2 年目の数値目標の確認 ・ 2021 年度の事業計画とその取組について
7 月 13 日	第 2 回	7 名	・ 2021 年度第 1 回分科会以降の動き ・ 2021 年度に取組む事業の進展状況
9 月 15 日	第 3 回	13 名	・ 第 2 回以降の報告 ・ 2 年目作業項目①～⑦の取組状況を確認 ・ 特にサイト案内チラシの第 5 稿とオンライン見学の取組み方に議論集中
10 月 30 日	第 4 回	6 名	・ 中間報告草稿の確認 ・ 11 月計画（外部への呼びかけ事項確認） ・ サイトの機能を高める修正について
1 月 12 日	第 5 回	7 名	・ 報告書の作成と選考委員のコメントについて ・ 報告書作成に向けて検討チームを立上げ

*別に報告書検討チームによる検討会を 4 回（1 月 26 日、2 月 2 日、2 月 28 日、3 月 19 日）開催、参加者は各 4 名。

2.1.2. 受入企業の増加とサイトの活用

2.1.2.1. 見学受入企業開拓、呼びかけ

(1) 目的

2020 年度に開設したサイトを活用した見学受入企業の増加を目指す。

(2) 実施計画

見学受入企業の開拓、呼びかけは 4 月からと 10 月からの 2 回計画した。

(3) 進捗状況

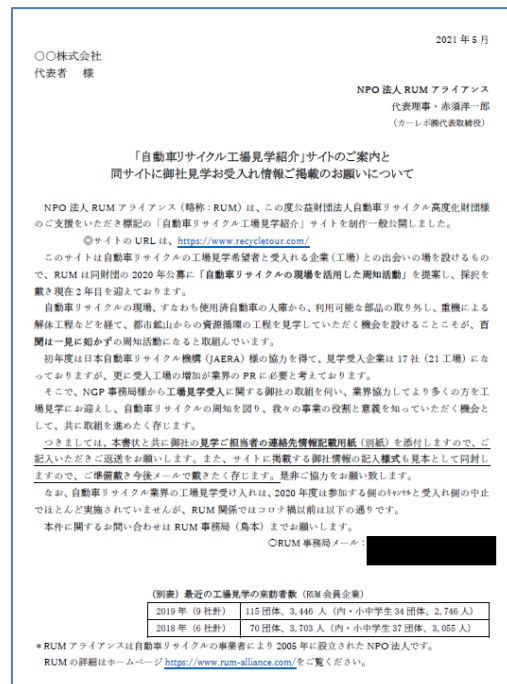
- ・ 計画通り 4 月からと 10 月からと 2 回の呼びかけを実施した。
- ・ NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合（以下、NGP）から 4 月 1 日に見学可能な 25 社の名簿が届くも、内 8 社はすでに本事業のサイトに登録済み。未登録の 17 社を呼びかけ対象にする。
- ・ 5 月 18 日までに見学受入を呼びかける書面を郵送。5 月末までに 2 社から参加希望連絡があり、19 社 23 工場となる。
- ・ 以後コロナ禍の拡大に伴い、本事業側からの声掛けを中断した。
- ・ 10 月以降コロナ禍の合間に NGP と JAERA 会員企業 31 社へ再度呼びかけを実施した。
- ・ 3 社から参加希望の連絡があり、22 社 26 工場となる。
- ・ 2022 年に入りコロナ禍は第 6 波となる。
- ・ 受入企業は全体で 22 社（26 工場）、目標 8 社増に対し 5 社増加、達成率は 63%。

添付資料 1 サイトの案内と情報掲載の依頼状（図 2-1）

(4) 今後の進め方

NGP と JAERA の会員企業へは、2022 年度も呼びかけを継続する。

図 2-1 サイトの案内と情報掲載の依頼状（添付資料 1）



2.1.2.2. 教育関係者への呼びかけ、チラシ作成・送付

(1) 目的

2020 年度に開設したサイトの活用のため、サイトの案内チラシを制作し、まず教育関係者に呼びかけ、見学訪問に結びつける。

(2) 実施計画

教育関係者への呼びかけは、4 月からと 9 月からの 2 回計画した。

(3) 進捗状況

- 4 月～7 月と 9 月～11 月 (2 回) の呼びかけ計画だったが、前半はコロナ禍のため準備作業として、後半に実施した。更に 2022 年 2 月～3 月に追加実施を準備したが感染症の拡大で見送っている。
- 2021 年 4 月、教育関係者に呼びかける書面とサイトの案内チラシ原稿を持参し、人口 40 万都市と人口 3 万の町の教育委員会を訪ね、助言をいただいた。
- 教育委員会から、社会科研究部会長 (小学校校長先生) を紹介され伺ったところ、コロナ禍で先生の部会が 5 月、6 月は中止で、社会見学はできない状況との返事があった。
- チラシ原稿作成とオンライン見学 (バーチャル見学) の取組には、受入担当者から現場の実情を考慮して欲しいとの意見があり、受入担当者の意見交換会 (6 月 9 日) と研修 (7 月 27 日) まで進行を中断した。

- ・ 9月末でチラシ原稿、サイト内のオンライン見学（バーチャル見学）ページの修正を完了、10月から呼びかけをスタートした。
- ・ 教育委員会の送付先は、見学受入工場が所在する市町村の教育委員会とした。（自治体数では23になるが、企業から希望された近隣小学校の自治体も加えて30市町村教育委員会を対象にした。小学校数では715校になる。）
- ・ 教育委員会へはサイトの案内状とチラシを郵送した。（教育委員会は電子メールの公表を慎重にしているため。）
- ・ 教育委員会からの直接反応は1件、小学校から先生の反応は2件で工場見学に結びついた。
- ・ 2022年1月、教育委員会への2回目の案内状と見学受入企業22社26工場を掲載したチラシを送る準備を始めたが、コロナ禍第6波により送付を見送った。

添付資料2 サイト案内チラシ（図2-2）

添付資料3 教育委員会へのサイトの案内状（図2-3）

- ・ 教育委員会からの助言と経緯をまとめて参考①に掲載した。

参考①：教育委員会（教委）からの助言と経緯

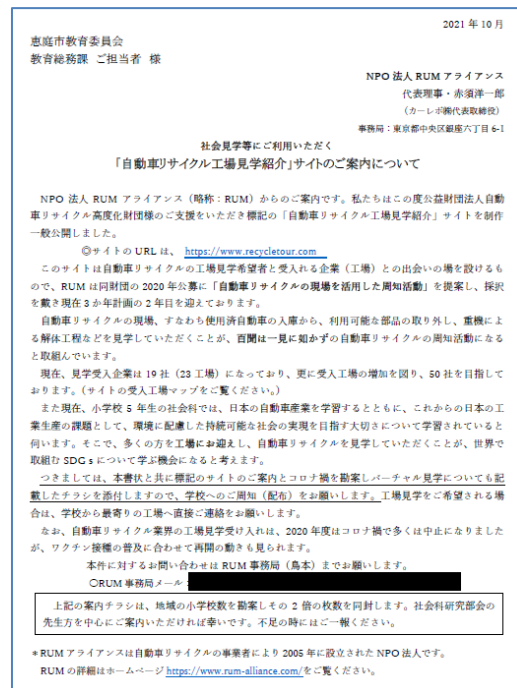
(4) 今後の進め方

- ・ 教育委員会へは第1回の案内の後、サイトマップの社数が3社増えたのでチラシを修正し、第2回送信を準備しているがコロナ禍で待機をしている。
- ・ 次回は直接小学校に案内を送ることを検討している。

図2-2 サイト案内チラシ（添付資料2）



図 2-3 教育委員会へのサイトの案内状（添付資料 3）



参考①： 教育委員会（教委）からの助言とその経緯

- 教委は自治体の規模により 2 つの段階（都道府県教委、市町村教委）がある。
- 2021 年 3 月、県教委に訪問趣旨を話したところ、県教委は高校以上を担当し、小中学校は市町村の教委になることが判明した。
- 市と町の教委を訪問してチラシを小学校に届けていただくことができるか伺ったところ、学校だけではなく、社会科研究部会の活動を紹介された。
- 教委から、社会科研究部会長（小学校校長）を紹介され伺ったところ、協力はしたいがコロナ禍で先生の部会が 5 月～6 月は中止になっている状況との返事。
- この期間を利用して、教委への呼びかけ文と案内チラシを整え、市教委に伺い丁寧な助言を数回にわたりいただいた。助言は、依頼状の文面修正と教委から小学校への連絡方法、小学校での各先生への周知方法など詳細で大変参考になった。
- 小学校には最低 2 枚届ける。1 枚は掲示、1 枚は先生方の回覧に必要。
- 受入各社の対応を考慮し、原則工場所在地の教委に「学校数×2+50 部」を送付。
- コロナ禍の小康状態の 10 月、助言をいただいた 4 箇所にはまず持参し、他の教委には郵送した。
- 送付の反応から、小学校では校長がセキュリティーで先生方のメール使用を制限しているところもあることを知った。

2.1.3. 継続 WEB 関係作業（サイト、SNS（Facebook）、動画（YouTube））

（1） 目的

2020 年度に制作した WEB 関係制作物の活用が 2021 年度の課題であり、維持管理に加えて、より有効な利用のための修正も加えることを目的とする。

（2） 実施計画

2020 年度の WEB 関係制作物の適宜更新と追加と修正などを年間通して対応をする。

（3） 進捗状況

【サイト】

- ・ 2 つの修正作業（マッチング機能向上、オンライン見学対応ページの追加）の取組については、コロナ禍を勘案してオンライン見学（バーチャル見学）対応を優先し 9 月に完成した。
<https://www.recycletour.com/>
- ・ マッチング機能を高める修正については 7 月研修で、受入担当者から現状の対応（人対人）が地域とのつながりを深める手段になるとの意見があり、現状の電話問合せを残して新たに直接メールで問合せができる修正案を作成した。
- ・ これまで見学希望者はサイトのマップから企業を選び、当該企業の WEB サイトを通して受入担当者に申込むか電話により申し込んでいた。この方式を改良し、サイト上のマップから企業を選択し、問合せフォームにより直接企業担当者につながるようにした。
- ・ 11 月受入担当者第 2 回研修でサイト制作者から修正案を説明し、直接メールでも問合せがあることを了解の上で、2022 年 1 月 14 日に修正を実施した。
- ・ 管理側では問合せフォームの記載があれば記録で確認できるようにした。
- ・ サイト訪問者数は 2021 年 4 月から 2022 年 3 月末までの合計で 1,438 人であった。
- ・ 11 月にサイト訪問者が増加しているが、教育委員会に案内チラシを送付した時期になる。

【SNS（Facebook）】

- ・ 本事業の事務局に管理者を特定し、各社情報担当との連絡体制を整備した。（10 月）
- ・ 2021 年 10 月から 2022 年 3 月までに工場見学風景を紹介する 16 件を掲載した。

図 2-4 Facebook ページ



【動画 (YouTube)】

- ・ 動画に関しては、新たな制作は 2021 年度計画にはないので、オンライン見学（バーチャル見学）に際して、サイトに登録している企業の動画を準備していただき運用している。
- ・ 3 本の動画の視聴回数は 2021 年 4 月から 2022 年 3 月末までの合計で 6,605 回。

(4) 今後の進め方

【サイト】

受入企業は見学受入を通して地域との絆を深めることを要望している。できるだけ人手が関わる方法を考慮し、地域の人的な交流のきっかけとなるように考えたい。

【SNS (Facebook)】

Facebook は週 1 回の情報の投稿を目指し、引き続き工場見学を受入れた企業から見学時の様子（写真など）を提供していただく。サイトの PR に利用していく。

【動画 (YouTube)】

見学受入企業から Facebook の情報をいただき、その情報数社分を集めてパッケージにして、3 本の動画と共に活用できないか検討する。

図 2-5 自動車リサイクル工場見学サイト・バーチャル工場見学ページ



図 2-6 自動車リサイクル工場見学サイト訪問者数

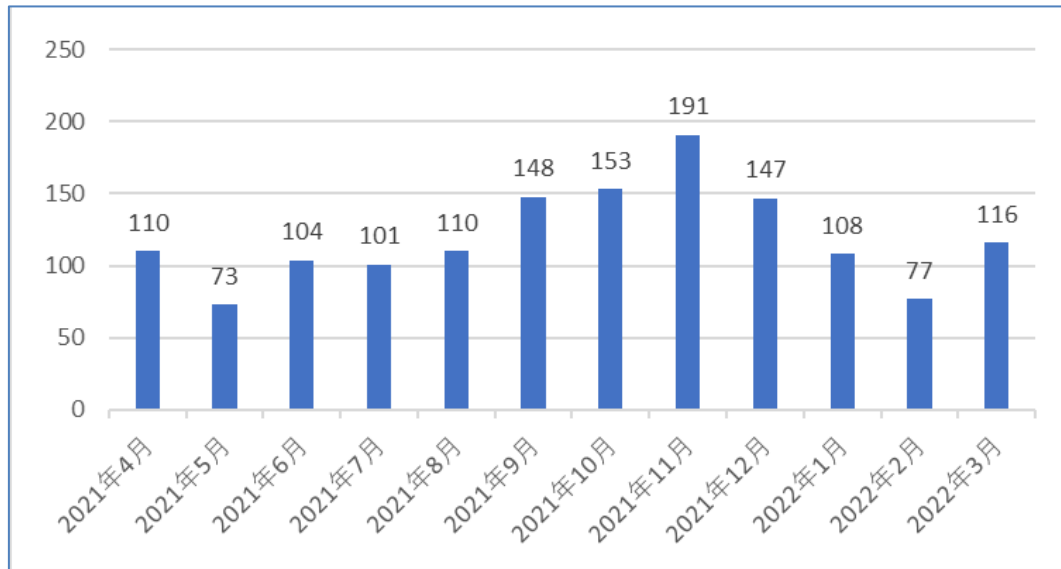
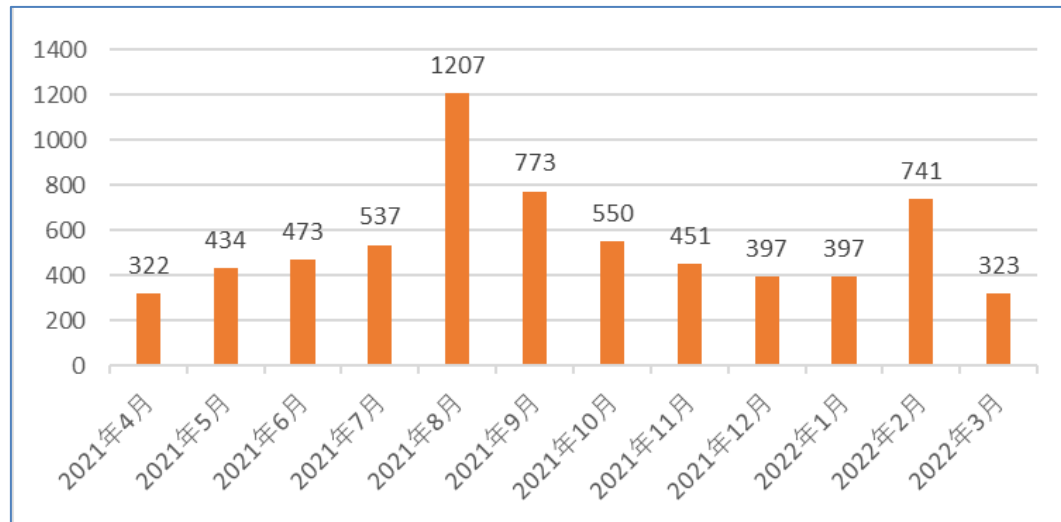


図 2-7 YouTube チャンネルの動画視聴回数



2.1.4. 月次見学受入実績集計

(1) 目的

マッチングサイト「自動車リサイクル工場見学紹介」の効果を把握するため、各受入企業の見学者数を月次で集計する。

また、報告を通して受入企業各社の担当者との交流を深める。

(2) 実施計画

- ・ 各月の工場見学の受入回数、見学者数をオンライン見学（バーチャル見学）も含めて各企業からの月次の報告を基に集計する。
- ・ 見学受入日、団体名、人数、反響なども記録する。

(3) 進捗状況

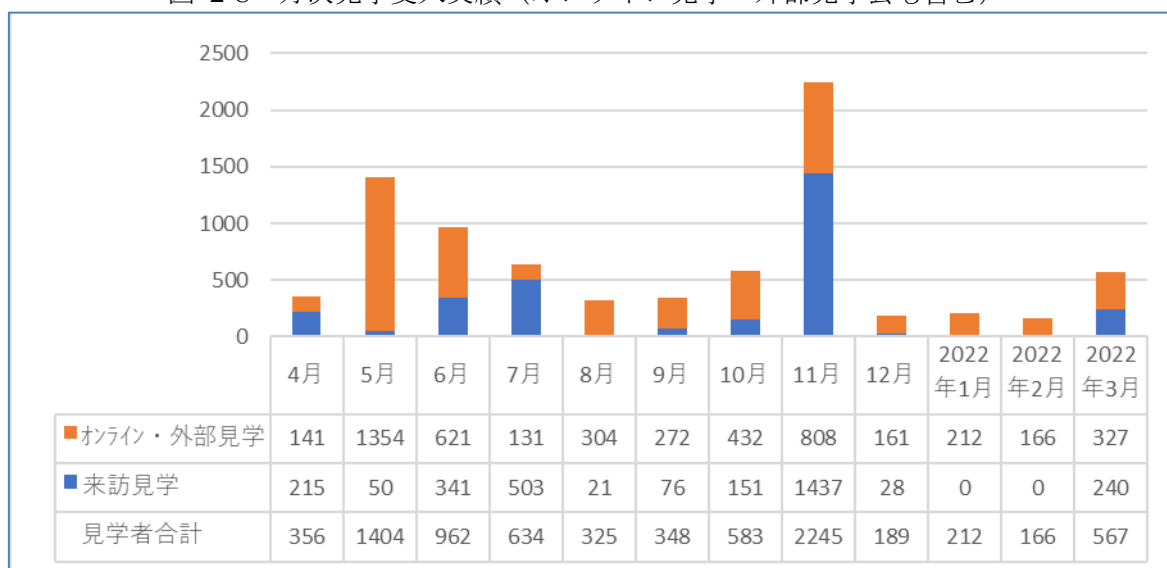
- ・ 4月～6月は予約があったが、コロナ禍でキャンセルと中止が多くあった。一方でオンライン見学（バーチャル見学）が行われた。
- ・ 2021年4月から2022年3月末までの合計7,991名で内4,929名はオンライン等で62%になる。

（注）上記の「等」は当方から出かけて説明と解説をした高校の事例で、外部出張実施見学（外部見学）である。

(4) 今後の進め方

- ・ 各社の月次集計データを翌月の第1週中にいただけるようルール化する。

図 2-8 月次見学受入実績（オンライン見学・外部見学会も含む）



2.1.5. 顧客満足度を高める取組

顧客満足度を高める取組については主に「見学受入の対応」、「パネルの制作、手引きの修正」、「小冊子の増刷と配布」の作業を行う。

(1) 目的

コロナ禍の下で来訪された見学者を顧客になぞらえて、顧客に良い体験と印象を持っていただくための準備（説明資料・機材など）と同時に、お迎えする接客力で顧客の満足度を高めることを目的とする。

(2) 実施計画

【見学受入の対応】

4月から翌年3月が対象期間。

【パネルの制作、手引きの修正】

9月作業開始。

【小冊子の増刷と配布】

9月開始。

(3) 進捗状況

【見学受入の対応】

4月と11月に2回の研修を実施しオンライン見学（バーチャル見学）についての事例に学んだ。

【パネルの制作、手引きの修正】

着手と同時に分科会、及び受入担当者研修で以下の諸点からパネルに代えてポスターにすることを勧められたのでポスターで制作した。

- ・パネルは使い勝手が悪く、移動と保管に不便で、内容の修正ができない。
- ・利便性と経費面からもデータで制作しポスターにする方が良いと勧められた。

12月から制作を進めデータは3月に完成した。

また、初年度制作した手引きの修正は、オンライン見学（バーチャル見学）についての一章を新たに追加した。

【小冊子の増刷と配布】

10月末で昨年作成した小冊子は在庫1,000部となり、2021年度として8,000部増刷し、12月には1,400部配布した。

(4) 今後の進め方

【見学受入の対応】

オンライン見学（バーチャル見学）の問合せが増加すると予想する。資料の準備などに臨機応変の対応をしていきたい。

【パネルの制作、手引きの修正】

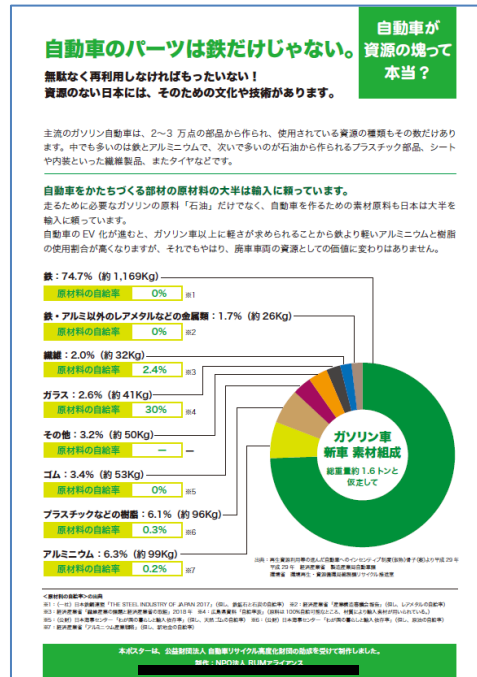
データは3月に完成したのでポスター制作に進めていく。

【小冊子の増刷と配布】

協力いただく法人の資料も在庫し迅速な配布に心がける。

添付資料4 ポスター用制作データ（図2-9）

図 2-9 ポスター用制作データ（添付資料4）



2.1.6. 受入担当者研修、意見交換会

(1) 目的

工場見学の受入に際して、直接対応する担当者（総務部門、広報部門など）の対応が見学者の満足度につながる。担当者の応接力、会社と仕事の理解度が影響する。そこで同じ立場にある方の集合研修によりスキルの向上を図る。

また、意見交換会は受入担当者の交流を進めるために企画する。

(2) 実施計画

研修は7月と11月の2回。意見交換会は担当者の要望による。

(3) 進捗状況

作業の進捗	開催日	参加者	概要
第1回意見交換会（リモート開催）	2021年 6月9日	16名	コロナ禍での来訪呼びかけとオンライン見学について。
第1回工場見学受入担当者のスキルアップ研修（リモート開催）	2021年 7月27日	15名	見学受入2社のシナリオ事例発表&研究。 コロナ禍の継続下でのオンライン見学について。
第2回工場見学受入担当者のスキルアップ研修（リモート開催）	2021年 11月25日	16名	バーチャル見学の事例研究（NGPの事例）。 マッチング機能を高めるサイトの修正についての説明。
第2回意見交換会（リモート開催）	2022年 3月24日	21名	1月～3月の見学受入状況。 見学時の説明資料について。

(4) 今後の進め方

- ・ 意見交換会と研修で出された意見（参考②記載）についてはその取組に向けて検討する。
- ・ 初めて取組むオンライン見学（バーチャル見学）については不安が出されたが、事例研究を続けていくことを確認し、相互に経験を積むことを続ける。
- ・ 受入担当者との連絡を密にして、要望に対応するサイトの修正を続ける。
- ・ 感染症に対する規制の発出と解除が繰り返され、これから見学を再開する企業の見通しがつきづらい。コロナ禍においてはオンライン見学（バーチャル見学）を取り入れ、その充実を図る必要がある。

添付資料5 意見交換会案内（図 2-10）

添付資料6 受入担当者研修第1回案内（図 2-11）

添付資料7 受入担当者研修第2回案内（図 2-12）

添付資料 8 意見交換会第 2 回案内（図 2-13）

参考②： 工場見学受入担当者からの意見と助言

図 2-10 意見交換会案内（添付資料 5）

2021 年 5 月 25 日

工場見学受入ご担当者様

特定非営利活動法人 RUM アライアンス
事務局 島本俊和

工場見学受入担当者意見交換会のご案内
—フリーな意見交換で交流を深めていただくために—

現在、コロナ禍は昨年を超える状況ですが、一方ワクチン接種の進展が期待されています。工場見学はもうしばらくは準備と小規模あるいはバーチャルでの受入れになるでしょう。

さて、高度化財団の採択事業として、「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトを<https://www.recycletoar.com/>ご案内しておりますが、3 か年計画の 2 年目は、このサイトの活用を目指しております。見学を受入れる企業と来訪者、双方の増加を計る取組が求められます。

つきましては、計画 2 年目の取組をお知らせし、情報共有のために意見交換の場を設けたく、下記の意見交換会を企画しました。研修という改まった場ではなく、フリー討論の意見交換です。是非ご参加をお願いします。

なお、2021 年の担当者研修は 7 月と 11 月の 2 回予定しています。

記

工場見学受入担当者意見交換会
○日時：2021 年 6 月 9 日（水）13:00～14:00（60 分）
○Web 会議システム「ZOOM」使用
*別紙「参加申込み」を頂いたら前日までに招待 URL をメールでお送りします。
*詳細は、次ページをご覧ください。
○資料等
・参加お申込の方には、前日までに使用する資料をメール添付でお送りします。
○問合せ先：お問い合わせは次のメールおよび Tel をお願いします。
[REDACTED]

以上

○参加のお申込は別紙をご利用ください。

図 2-11 受入担当者研修第 1 回案内（添付資料 6）

2021 年 7 月 12 日

工場見学受入ご担当者様

NPO 法人 RUM アライアンス
代表理事 赤須洋一郎

工場見学受入担当者スキルアップ研修のご案内
—来訪者満足度向上をめざし事例に学ぶ—

コロナ禍の収束はワクチン接種の進展如何にかかり、世論は五輪開催に向かっていますが、工場見学受入はもうしばらくは小規模あるいはバーチャルでの受入れになると思われます。

さて、高度化財団の採択事業として、「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトを<https://www.recycletoar.com/>ご案内しており、3 か年計画の 2 年目は、このサイトの活用をめざしております。

つきましては、6 月に開催した意見交換会に続き 7 月は担当者の研修を下記の通り実施します。内容は前回研修の要望に沿い、来訪者受入れ時の説明手順などの進行シナリオを交換し、各社事例から学ぶことをめざします。是非ご参加をお願いします。

なお、2021 年の担当者研修は 7 月と 11 月の 2 回を予定しています。

記

工場見学受入担当者スキルアップ研修
○日時：2021 年 7 月 27 日（火）13:00～15:00（120 分）
○Web 会議システム「ZOOM」使用
・別紙「参加申込み」を頂いたら前日までに招待 URL をメールでお送りします。
*詳細は、次ページをご覧ください。
○資料に関する参加者へお願い
・参加お申込の方には、7 月 23 日までに見学受入の際に使用する進行表（シナリオ）に類した資料で、研修当日の事例研究に使用可能な資料をお送りください。
・事例研究として頂戴した各社の進行表（シナリオ）につき意見交換します。
○問合せ先：お問い合わせは次のメールおよび Tel をお願いします。
[REDACTED]

以上

○参加のお申込は別紙をご利用ください。

図 2-12 受入担当者研修第 2 回案内 (添付資料 7)

2021 年 11 月 11 日

工場見学受入担当者 様

NPO 法人 RUM アライアンス
代表理事 赤須洋一郎

工場見学受入担当者スキルアップ研修第 2 回のご案内
—来訪者満足度の向上をめざす—

コロナに係る規制が解除され、10 月以降感染者数は劇的な減少を見せております。
巷間では経済の活性化と人流復活が話題になっています。工場見学者も 10 月以
降は、徐々に動きがでてきました。

さて、高度化財団の採択事業として、「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトを制
作、2 年目はこのサイトの活用をめざしております。
<https://www.recycletour.com/>

つきましては、先の連絡に続き今年度 2 回目研修の開催についてご案内します。
ご参加を期待しております。

記

1. 見学受入担当者第 2 回研修の開催

○日時: 2021 年 11 月 25 日 (木) 13:30~15:30 (120 分)

○Web 会議システム「ZOOM」使用

・別紙「参加申込み」を頂いたら前日までに招待 URL をメールでお送りします。
*詳細は、次ページをご覧ください。

○討論事項:

・バーチャル見学会事例の紹介

・教育関係者へのサイト案内と応対
(教育委員会へのサイト案内チラシをゆうパック便で送付します。添付書面参照)

・参加の皆様からリクエストのあった事項をテーマに加えます。

*多数のご参加を期待します。

*なお、10 月末の見学者数につき未報告の方は至急お知らせください。

○問合せ先: お問合わせは次のメールおよび Tel をお願いします。

○参加のお申込は別紙をご利用ください。 次ページ ⇒

図 2-13 意見交換会第 2 回案内 (添付資料 8)

2022 年 3 月 2 日

工場見学受入担当者 様

特定非営利活動法人 RUM アライアンス
事務局 島本俊和

第 2 回工場見学受入担当者意見交換会のご案内
—フリーな意見交換で交流を深めていただくために—

コロナ禍は 3 年目に入り、ワクチン接種も 3 回目が進み、これからの収束が期待され
ています。工場見学はもうしばらく小規模あるいはオンライン見学 (バーチャル見学)
での受入れになると存じます。

さて、高度化財団の採択事業として、「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトを
<https://www.recycletour.com/>ご案内しておりますが、お陰様で 3 年計画の 2 年目はサ
イトの登録は 22 社 (26 工場) に増加し、見学受入数は 4 月~12 月の合計で 7,046 名
(内オンライン見学 4,224 名 60%) となっています。

本事業は後 1 年 (2022 年度) を残すのみとなりましたが、計画 3 年目の取組をお知
らせし、情報共有のために意見交換の場を設けたく、下記の意見交換会を企画しました。
研修という改まった場ではなく、フリー討論の意見交換です。ご参加をお願いします。
なお、2022 年度の担当者研修は、前年同様 7 月と 11 月の 2 回を予定しています。

2021 年度、第 2 回工場見学受入担当者意見交換会

○日時: 2022 年 3 月 24 日 (木) 13:00~14:30 (90 分)

○Web 会議システム「ZOOM」使用

*別紙「参加申込み」を頂いたら前日までに招待 URL をメールでお送りします。

○資料等: この意見交換会を呼びかける方全員に、事前に自動車リサイクル周知の事
業に取組む協働 3 団作成の以下の資料を郵送でお届けします。

・公益財団法人 自動車リサイクル促進センター (JARC)
「数字で考えるクルマのリサイクル」A4 版、縦書き 8 ページ。

・公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 (NACS)
「もっと自動車リサイクル」A5 版 16 ページ。

・NPO 法人 持続可能な社会をつくる元気ネット
「そうだったのか自動車リサイクル」A5 版 28 ページ。

○上記の資料を比較し、見学者と見学方式 (リアル or オンライン) により説明時の
資料の選択を試みようと考えています。各位の意見を頂戴します。

○参加お申込の方には、更に前日までに進行次第と追加資料をメールでお送りします。

○問合せ先: お問合わせは以下のメールおよび Tel をお願いします。(次ページ下)

参考②： 工場見学受入担当者からの意見と助言

見学受入担当者とは、本事業のこれまでの研修（3回実施）と意見交換会（3回実施）で話し合いの機会を設けた。受入担当者からの発言を以下に整理する。

○要望

- 地元志向が貫かれ、地域との連携、絆を重視し、地元との交流手段として工場見学を受入れている。
- できる限り地元と触れ合う機会にしたいのでデジタル時代とはいえ、電話での連絡など人と人の結びつきを維持して欲しい。（マッチングサイトの修正時）
- オンライン見学はこれまでしたことがないので不安。
- 見学受入には、仕事の繁閑と季節性を事前に明示したい。北国では冬期間は受入れが難しい。

○コロナ禍での対応

- できるだけ受入回数を少なくしたい。また1回の人数をへらしたい。
- 長年受入れている企業の場合、これまでの受入実績で年間の受入計画ができつつあり、コロナ禍で新規の予約は受入れできない。
- 協力をしたいが自社の企業継続プラン（BCP）から受入れを中止せざるを得ない。

2.2. 2021 年度実施結果を踏まえた考察

2.2.1. 2021 年度事業の効用

初年度に制作した YouTube 収録の動画を導入部として「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトの活用を図ることを 2 年目の主要な目標とした。

サイトは利用者の目的に合う使い易さと利用の効果が求められる。サイトのマッチング機能向上の修正は 2022 年 1 月に実施し、見学希望者はメールで直接担当者に問合せができるようになった。これまでのように電話での問合せの手段も残している。

サイトの利用を促進するためには、受入企業の増加と見学者の増加が必要と考え、受入企業の開拓には、自動車リサイクル業界の主要団体 JAERA と有力事業協組 NGP にも協力をいただき取組む事業となった。見学者増には、主要顧客の教育関係者にサイトを案内するチラシを送付した。

また、コロナ禍での見学受入には WEB を利用したオンライン見学（バーチャル見学）の取組も求められ、受入担当者研修を 2 回実施した。

(1) 事業の有効性

本年度事業で得られた効果

- ・ 2021 年度の動画の視聴：YouTube 掲載の動画 3 本の 2021 年 4 月から 2022 年 3 月末までの視聴回数は合計 6,605 回。
- ・ サイト上工場マップの受入企業：前年の 17 社 21 工場から 2022 年 3 月末までに 5 社増加し、22 企業（26 工場）となった。同期間のサイトの訪問者数は 1,438 人になっている。
- ・ 受入企業担当者研修で、オンライン見学（バーチャル見学）についての事例研究に力点を入れ、受入担当者に対して新たな見学方式としての準備、説明、手順などを話合う場を持つことができた。
- ・ 工場見学者は 2021 年度目標 6,000 名に対し、2021 年 4 月から 2022 年 3 月末で 7,991 名（内オンライン見学は 4,929 名、リアル見学は 3,062 名）。

(2) 事業の発展性

- ・ サイトの受入企業を RUM の 9 社に加えて、2020 年度に 8 社増加し、2021 年度に 5 社増加した。今後もコロナ禍で中止している 12 社等に呼びかけを続ける。
- ・ オンライン見学（バーチャル見学）をリアル見学の補完ではなく、進化した見学方式と考える。

【オンライン見学（バーチャル見学）の発展性】

- 全国どこからでも見学先の企業を選ぶことができるので、見学者の要望に合わせて見学先を助言できる。（各受入企業の強みも理解しておく。）
- 見学者に合わせて、オンラインによる説明を工夫して、講師と説明資料を変えてより深い理解に結びつけることができる。
- 講演依頼の時にもオンラインの講話を設け、小冊子を資料として活用できる。

(3) 事業の効率性

- ・ 2021 年度も事業費にかかる旅費、会議・研修の会場費が大幅に減少している。
- ・ コロナの効用ともいえる WEB 会議は、移動時間を無くし経費削減の効果があり今後も活用する。

(4) 自動車リサイクル業界への影響

- ・ 本事業の推進に業界最大団体 JAERA の協力をいただき、2021 年度に NGP の協力があり、また高度化財団の公募事業で周知活動に取り組んでいる先達の消費者団体や環境活動家の NPO 法人とコラボの話をいただけたことは、業界の中に協調の流れを作り出す契機になると考える。

2.2.2. 現状の課題と想定される解決方法

2021 年度の本事業は、2020 年度に制作したマッチングサイトの活用を第 1 の取組として、受入企業の増加とサイトの周知案内に取り組んだ。コロナ禍が続くなかで、2022 年度も見学受入に躊躇する企業への呼びかけとオンライン見学（バーチャル見学）の取組が引続き課題になっている。

(1) サイトの利用度を高める取組の継続（課題 1）

本事業でサイトを公開したのが 2020 年 12 月で、2021 年 4 月～2022 年 3 月末までのサイト閲覧者は 1,438 人になる。しかし、一部を除き次の事情で見学にまで結びつかないようだ。

すなわち、サイトを通して工場見学に行けることを知ってもコロナ禍の下では実行に踏み出すことに躊躇する。また、受入企業ではコロナ禍で受入回数と受入人数を絞っている事情もある。

（解決の取組）

- ・ この解決にはサイトの受入企業の増加が必要になる。見学受入企業の増加と受入機会の増加には、業界の協力の下で、受入れを中止している企業に働きかけを続け受入企業 50 社を実現したい。
- ・ 感染症が収束方向に向かうと教育関係者は社会見学をコロナ禍以前のように再開し、見学者の増加は期待できる。
- ・ 一般の方への呼びかけは、リサイクル祭り等のイベントの再開と、見学に来訪される経済団体（各種の研究会などのメンバー）を通して行う。
- ・ 自動車リサイクル周知に取り組む団体と業界関係団体とのコラボによる周知活動の取組をこれから具体化する。（現在 3 団体に協働を呼びかけている。）

【補足】

2021 年コロナ禍の夏休み、リサイクル祭りに代わる企画として、車のリサイクル部品を使った「リサイクル工作コンテスト」が 1 社で取組まれた。

- ・ 夏休み期間の 8 月 17 日～20 日、参加定員 20 組。
- ・ 自動車のリサイクル部品を活用して、夏休み工作作品に仕上げる創作コンテスト。

(2) 新しい見学スタイルとしてオンライン見学（バーチャル見学）の取組（課題 2）

コロナの影響で、現在工場見学のありようが大きく変化しつつある。

オンライン見学（バーチャル見学）を実際の見学ができない時の補完ととらえてきたが、コロナ禍の下では、新しい見学方式として、受入体験を重ねて充実させる必要がある。

（解決の取組）

- ・ 事例研究から進めて、協力団体とのコラボにより、リサイクル周知活動をより進化（深化）できる見学方式に充実する。
- ・ オンライン見学（バーチャル見学）充実、自動車リサイクルの周知活動に取組んでいる法人と資料の交換を進め、資料に合わせて解説者をオンラインで入れ替えるなどのコラボを実施する。
- ・ NGP が取組んでいる「バーチャル見学」の実施事例に学ぶ。
- ・ 2021 年度に先進企業の取組に学ぶ事例研究を始めた。以下は研修で取上げた事例である。

【事例研究】

- 2021 年 8 月にオンライン見学を実施した三重県企業の事例。
所要時間：45 分間、動画視聴 25 分、WEB を通して自社作成資料解説と質疑 20 分。
- 2021 年 3 月～4 月、石川県の企業がオンライン見学を実施した事例。
商業高校で校長室から 1 学年全クラスに講話と説明。教材は動画と小冊子。
- 設営された会合のゲスト講師に招聘され、自社に居ながら講話した事例。

(3) 今年度の見学者動向と本事業の修正目標達成如何（課題 3）

2021 年度の見学者数は 2021 年 4 月～2022 年 3 月末で 7,991 名（内オンライン 4,929 名、約 62%）となりオンライン見学（バーチャル見学）は半数を超えている。

本事業が受けてきたコロナ禍の影響について以下に一つの事例を提示したい。

RUM の会員で 10 年以前から見学を受入れている企業の 2021 年 4 月から 12 月までの見学予約は 45 件で申込数は 3,915 名になっていた。この内 5 月～9 月のキャンセル数は 16 件で、10 月～11 月でも 3 件発生している。キャンセルの人数は 1,848 名で予約申込数の半数近い（47%）。

添付資料 9 工場見学受入 10 年超の企業の予約数、実施数、キャンセル数一覧 (2021 年 4 月～11 月)

コロナの影響が収束に向かえば、団体での工場見学は確実に増加することが同社の資料から推測できるが、本事業 3 年目の 2022 年度目標は見学者 10,000 名である。

（解決の取組）

- ・ 2022 年度目標達成には、感染症の動向を勘案して、WEB を活用したオンライン見学（バーチャル見学）の実施にも取組む。

- ・ 見学者数 10,000 人の目標達成には、コロナ如何が大きく影響するが、2 年目の見学実績を見るとオンライン見学(バーチャル見学)が見学者の 62%を占めており、コロナに影響されない見学方式としてこの方式を 2022 年度も勧めていく。
- ・ オンライン見学(バーチャル見学)の見学者には、できるだけ自動車リサイクルの現場で得られる学びをして欲しい。受入側として、上記課題 2 のオンライン見学(バーチャル見学)の充実に努めて、受入経験を増やす。
- ・ 受入担当者には引続きオンライン見学(バーチャル見学)の事例研究と、情報交換の機会(研修)を提供していく。

3. 2022 年度以降の助成事業の展開

3.1. 想定する事業の内容

3.1.1. これから取組む事業の内容

2022 年度は、本事業がこれからも継続に値する事業として、業界の内外から評価を得られるよう以下の 7 作業に取組み、本事業で制作した「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトの利用を増加し、最もアクティブなサイトとして業界内での評価をいただき、3 年を超えて以後も持続を求められる事業を目指す。

自動車リサイクルを最も深く理解する方法は、工場見学により現場に立つことであり、「リサイクルの現場、現物、現実を、見て、聴いて、感じる」ことだと取組んだ事業であり、自動車リサイクル業界に 15 年以上活動する NPO 法人として、これからもこの取組を継続することを命題としていきたい。

(1) 自動車リサイクル周知分科会

2021 年度は 5 回開催したが十分な意見交換には 2 ヶ月に 1 回が必要であり、2022 年度は 6 回の開催とする。

(2) 見学受入企業の増加とサイトの活用

サイトを活用していただくには、引き続き受入企業と見学者の両方の増加を図ることが必要になる。

引き続き業界企業に呼びかけを続けると共に、見学者への呼びかけは、主たる目標を教育関係者とする。

見学受入企業開拓

- ・ サイトのマップを都道府県レベルに展開できる工場数を確保する。
- ・ 現在コロナで中止の企業へ見学再開の呼びかけを継続する。(18 社)
- ・ 業界の事業協組にも工場見学受入の協力を呼びかける。(14 社)
- ・ 「見学受入の手引き」で見学受入の意義とメリットを対象企業に訴求する。
- ・ サイトのマップ上の企業数を 50 社にする。

教育関係者への周知

- ・ サイトの案内チラシを作成し、工場の立地する市町村の教育委員会に再度サイトを案内し、同時にオンライン見学^(注)について説明したチラシも送付し、見学を呼びかける。

(注) ここまでオンライン見学(バーチャル見学)と記載したが、2022 年度の取組からはオンライン見学とのみ表記する。

- ・ 現在、自動車リサイクルの周知活動で教育関係者への呼びかけは、自動車リサイクル促進センター(以下、JARC)と NGP でも行われている。JARC では小学生に対して自動車リサイクルの標語とポスターを募集し 5 回目を迎えている。こうした事業との協力とコラボを検討する。具体的には見学受入企業の情報を共有し、見学者に配布説明する資料の一部を提供していただくことから始めたい。
- ・ 各年 2 月～3 月の教育委員会社会科学研究部会の次年度計画策定期間に合わせて呼

びかけを工夫する。

- ・ 市町村の教育委員会の指導は小中学校であり、小学校と同じく中学校にも呼びかけることができている。高校生への呼びかけは、現状先生方の人的ネットワークに期待しているのが現状であり、個々の企業で就職活動支援の一環として職業高校からの見学を受入れている事例がある。この見学受入を拡充する。
- ・ 学生の就職活動支援のために工場見学を学校と先生へ呼びかける。

【補足】一般の方への周知

一般の方に対しては、これまで学生を引率する教育関係者のネットワークや、企業関係見学者の人脈を通して周知に取り組んでいるが、独自の活動としては以下の取組がある。これからも感染症の動向を勘案して継続する。

- ・ 夏休みを中心に開催している「リサイクル祭り」の来場者に工場見学を呼びかける。家族での来訪が中心になり、1日で3,000名を超える来場者がニブラの動きに歓声を上げている。（ここ2年は感染症で中止を余儀なくされている。）
- ・ 新たな取組として、高度化財団の公募事業で周知活動に取り組んでいる消費者団体やNPO法人との協働を試みたい。
- ・ 2022年度の取組として、見学来訪者の所属別（学生、企業人、一般など）と見学スタイル別（リアル、オンライン）に、来訪者の意向により資料を変えての説明を試行する。まず先達の法人に見学受入時の説明の充実のための協力を働きかけることから始めたい。

(3) 継続 WEB 関係（サイト、SNS（Facebook）、動画（YouTube））

- ・ 利用者に便利なサイトを目指し引き続き修正を施す。
- ・ Facebook に見学受入実施企業の情報を定期的に収録し、YouTube 掲載動画の補完とする。

（注）2021年度まで「継続 WEB 関係作業」と記載したが、2022年度は「作業」の文言を省き「継続 WEB 関係」と表記する。取組む内容は変わらない。

(4) 月次見学者等の集計

- ・ 見学者数と YouTube 動画、サイト、各種の集計作業を月次で続ける。
- ・ 新たにサイトマップに参加した企業からの要望等に対応する。

(5) 顧客満足度を高める取組

オンライン見学の充実

- ・ オンライン見学の希望が続くと思われるので、新たな見学スタイルとして充実に取り組む。実施企業の情報交換が必要になり、経験を重ねる必要があり、研修の場を活かす。
- ・ 見学者別、見学方式別に対応を考える。
- ・ 小冊子を増刷してオンライン見学と講話に備え、更に見学者の所属団体を勘案し希望により説明資料と説明者を協働する外部法人に求める。（例：見学者が消費者

団体の場合は、消費者団体からの説明者に登壇いただく)

- ・ 工場見学受入担当者の意見交換会で、提供いただく協力 3 団体の資料を、見学者の種類と見学方式（オンライン or リアル）に合わせて使うことを確認している。

説明資料の充実（小冊子の増刷、協働する法人資料の活用）

- ・ 自動車リサイクル事業は、SDGs と地球温暖化問題にも取り組む事業になっていることを説明する資料を制作する。
- ・ 活用の場面と経費節減を考慮し、パネルに代えて制作した電子データを、ポスターに作成する。
- ・ 見学者の引率者にポスターを記念に贈呈し、反復学習の一助にする。

(6) 受入担当者研修、意見交換会

- ・ 研修は年 2 回（上期 7 月、下期 11 月）開催する。
- ・ 意見交換会は 3 年目終了後も続けるよう改めて組織化を検討する。

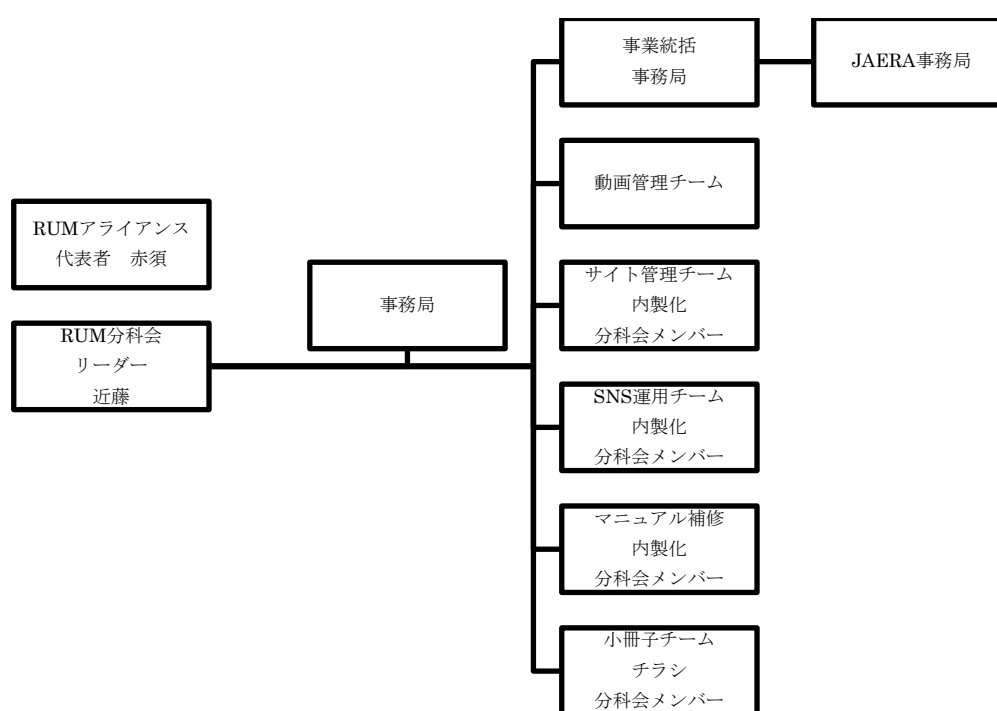
(7) その他

月次報告、報告書などの作成、各種の問い合わせの対応を継続する。

3.2. 事業の実施体制

2022 年度の事業実施体制は、現在の分科会を中心とする体制を維持する。

図 3-1 2022 年度の事業実施体制図



3.3. 実施スケジュール

(1) 2022 年度 工程表

2022 年度の事業は、2020 年度、2021 年度の作成物を維持しつつ、修正を加え、7 作業項目に以下の計画で取組む

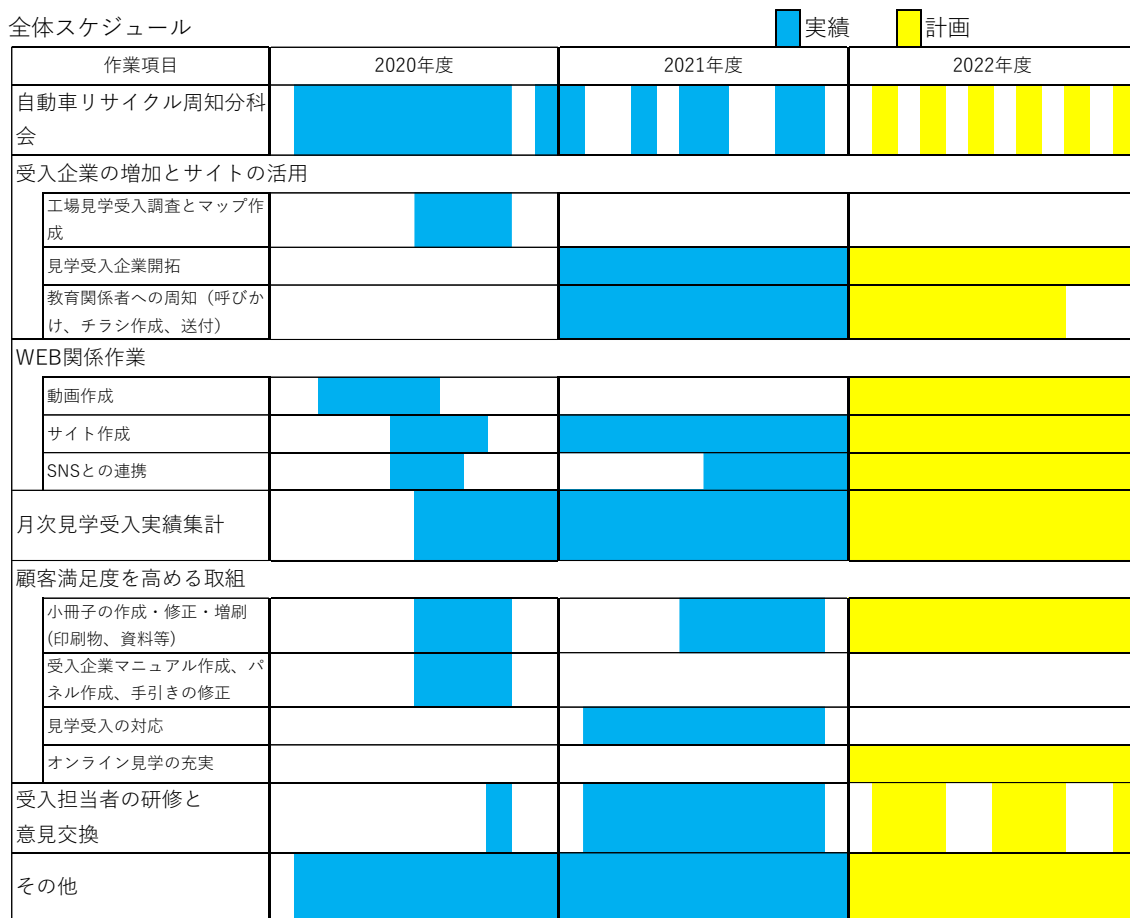
図 3-2 2022 年度工程表

■2022年度工程表

作業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① 自動車リサイクル周知 分科会												
② 見学受入企業の増加とサイトの活用												
見学受入企業開拓												
教育関係者への周知												
③ 継続WEB関係 (サイト、SNS、動画)												
④ 月次見学者等の集計												
⑤ 見学者の満足度を高める取組												
オンライン見学の充実												
説明資料の充実												
⑥ 受入担当者研修、 意見交換会												
⑦ その他												

(2) 複数年度全体スケジュール

図 3-3 全体スケジュール



3.4. 資金計画

提案時に申請した 2022 年度の費用見積は、総額で合計 2,521,309 円。

○3 か年の経費総額（申請時見積）

- ・ 2020 年度：5,522,797 円
- ・ 2021 年度：3,706,460 円
- ・ 2022 年度：2,521,309 円

以上

2021 年 5 月

〇〇株式会社
代表者 様

NPO 法人 RUM アライアンス
代表理事・赤須洋一郎
(カーレボ㈱代表取締役)

「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトのご案内と 同サイトに御社見学お受入れ情報ご掲載のお願いについて

NPO 法人 RUM アライアンス (略称: RUM) は、この度公益財団法人自動車リサイクル高度化財団様のご支援をいただき標記の「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトを制作一般公開しました。

◎サイトの URL は、<https://www.recycletour.com/>

このサイトは自動車リサイクルの工場見学希望者と受入れる企業 (工場) との出会いの場を設けるもので、RUM は同財団の 2020 年公募に「**自動車リサイクルの現場を活用した周知活動**」を提案し、採択を戴き現在 2 年目を迎えております。

自動車リサイクルの現場、すなわち使用済自動車の入庫から、利用可能な部品の取り外し、重機による解体工程などを経て、都市鉱山からの資源循環の工程を見学していただく機会を設けることこそが、**百聞は一見に如かず**の周知活動になると取組んでいます。

初年度は日本自動車リサイクル機構 (JAERA) 様の協力を得て、見学受入企業は 17 社 (21 工場) になっておりますが、更に受入工場の増加が業界の PR に必要と考えております。

そこで、NGP 事務局様から**工場見学受入**に関する御社の取組を伺い、業界協力してより多くの方を工場見学にお迎えし、自動車リサイクルの周知を図り、我々の事業の役割と意義を知っていただく機会として、共に取組を進めたく存じます。

つきましては、本書状と共に御社の**見学ご担当者の連絡先情報記載用紙** (別紙) を添付しますので、ご記入いただきご返送をお願いします。また、サイトに掲載する御社情報の記入**様式**も見本として同封しますので、ご準備戴き今後メールで戴きたく存じます。是非ご協力をお願い致します。

なお、自動車リサイクル業界の工場見学受け入れは、2020 年度は参加する側のキャンセルと受入れ側の中止でほとんど実施されていませんが、RUM 関係ではコロナ禍以前は以下の通りです。

本件に関するお問い合わせは RUM 事務局 (鳥本) までお願いします。

○RUM 事務局メール:

(別表) 最近の工場見学の来訪者数 (RUM 会員企業)

2019 年 (9 社計)	115 団体、3,446 人 (内・小中学生 34 団体、2,746 人)
2018 年 (6 社計)	70 団体、3,703 人 (内・小中学生 37 団体、3,055 人)

*RUM アライアンスは自動車リサイクルの事業者により 2005 年に設立された NPO 法人です。

RUM の詳細はホームページ <https://www.rum-alliance.com/> をご覧ください。

社会科見学のコースとしてご検討ください

自動車リサイクル

の大切さを学んでみませんか？

不要になった車を、
リサイクルや解体処理
して再資源化していく
工程を見学できます。



リサイクルへの想い

地球環境を守る必要性、大切さを唱える声は年々大きくなっています。2015年には国際連合において「SDGs」(持続可能な開発目標)が採択され、環境問題への提言を含むそれら17の目標は、世界中の国々でその実現のために様々な努力が行われています。社会生活を営む上で、限られた資源をいかに有効活用し廃棄物を削減していくのか、それは人類の未来に向けて掲げられた大きな課題と言えるでしょう。

私たちRUMアライアンスでは、次代を担う子ども達が自動車リサイクルの現場見学を通じ、環境問題への取組やリサイクルの大切さを学ばきっかけになって欲しいと考えています。



工場見学 お申し込みサイト

専用のサイトよりお近くの見学受入を行っている企業をご紹介します。【工場マップ】よりご希望の企業をお選びの上、お気軽にお問い合わせください。

工場見学お申し込みサイト 「自動車リサイクル工場見学紹介」

<https://www.recycletour.com/>

さまざまなエリアの工場が
見学できます。

お申し込み
サイトは
こちらから



お申し込み に関して

- 見学は無料です。
- 見学対象年齢は小学生3年生以上とさせていただきます。
- 見学希望日・見学可能人数・駐車場に関しましては、お問い合わせいただいた企業にご確認ください。

本事業のサイトの制作と運営は、公益財団法人 自動車リサイクル高度化財団の支援を受けています。

協力会社 MAP

19社23工場（令和3年9月現在）

- 自動車解体工程を見学できる会社（工場）
- 自動車に関連するプラスチック、ガラス等の処理工程を見学できる会社（工場）

九州

- （有）オートリサイクルナカシマ福岡（福岡県筑紫野市）
- （株）オートリサイクルナカシマ（大分県日田市）
- （株）久保田オートパーツ（宮崎県宮崎市）
- （株）オートパーツ伊地知（鹿児島県鹿児島市）

北信越

- 飛田テック（株）新潟オートリサイクルセンター（新潟県上越市）
- 飛田テック（株）新潟オートリサイクルセンター下越（新潟県新潟市）
- 会宝産業（株）（石川県金沢市）

近畿

- （株）浜田 太陽光パネル処理工場（京都府八幡市）
- （株）浜田 大阪リサイクルセンター（大阪府高槻市）

北海道

- 石上車輛（株）石上車輛恵庭工場（恵庭市）
- （株）高橋商会（釧路郡）
- （株）辻商会（旭川市）

東北

- （株）永田プロダクツ（山形県酒田市）
- （株）ナプロアース（福島県伊達市）

関東

- ヴェオリア・ジェネツ（株）茨城工場（茨城県常総市）
- カーレボ（株）ひたちなか工場（茨城県ひたちなか市）
- （株）エコアール（栃木県足利市）
- （株）CRS埼玉（埼玉県川越市）
- （株）浜田 京浜島エコリジセンター（東京都大田区）

東海

- KMI（株）（岐阜県養老郡）
- （有）近松商会（岐阜県岐阜市・関市）
- （株）マーク・コーポレーション（三重県鈴鹿市）

四国

- 三木資源（株）（徳島県徳島市）

協力会社は今後も増加いたします。最新の状況はホームページにてご確認ください。

見学を希望される場合は、
お申し込みサイト内の【工場マップ】を
ご利用ください。

- ご希望の企業がある場合、その企業の概要（所在地・連絡窓口）や受入条件などが紹介されます。
- 見学に関する詳細は各社受付担当者、もしくは
NPO法人 RUMアライアンス までお問い合わせください。

バーチャル工場見学

スマートフォンにも
対応しています

工場に移動しての見学が難しい場合、また希望する地域に受入企業がない場合などは、動画配信による【バーチャル工場見学】をお勧めしています。360°カメラによる撮影で、工場を見学しながらリサイクルの工程や大切さを学ぶことができます。



詳しくは、サイト内「バーチャル工場見学」の
ページをご覧ください。



バーチャル工場
動画はこちら



参加者の方には

参加者の方には見学用冊子「自動車リサイクルの話をしよう～私たちの現場から～」を無料配布しています。自動車リサイクルの意義や工程、現在の状況などが記載されています。



コロナ感染拡大防止に関して

コロナ感染拡大防止のため、参加者の方には以下をお願いをしています。ご理解とご協力をお願いいたします。

- 見学の前には検温をお願いいたします。見学の途中であっても、体調の不具合を感じた場合はお申し出ください。
- 見学の際にはマスクを着用し、またアルコールなどで手の消毒をお願いいたします。
- 工場内などを移動する際はできるだけ人との距離をとり、あまり密にならないようご注意ください。

2021 年 10 月

〇〇市教育委員会
学校指導課 ご担当者 様

NPO 法人 RUM アライアンス

代表理事・赤須洋一郎

(カーレポ㈱代表取締役)

事務局：東京都中央区銀座六丁目 6-1

社会見学等にご利用いただく
「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトのご案内について

NPO 法人 RUM アライアンス（略称：RUM）からのご案内です。私たちはこの度公益財団法人自動車リサイクル高度化財団様のご支援をいただき標記の「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトを制作一般公開しました。

◎サイトの URL は、<https://www.recycletour.com>

このサイトは自動車リサイクルの工場見学希望者と受入れる企業（工場）との出会いの場を設けるもので、RUM は同財団の 2020 年公募に「**自動車リサイクルの現場を活用した周知活動**」を提案し、採択を戴き現在 3 か年計画の 2 年目を迎えております。

自動車リサイクルの現場、すなわち使用済自動車の入庫から、利用可能な部品の取り外し、重機による解体工程などを見学していただくことが、**百聞は一見に如かず**の自動車リサイクルの周知活動になると取組んでいます。

現在、見学受入企業は 19 社（23 工場）になっており、更に受入工場の増加を図り、50 社を目指しております。（サイトの受入工場マップをご覧ください。）

また現在、小学校 5 年生の社会科では、日本の自動車産業を学習するとともに、これからの日本の工業生産の課題として、環境に配慮した持続可能な社会の実現を目指す大切さについて学習されていると伺います。そこで、多くの方を**工場にお迎え**し、自動車リサイクルを見学していただくことが、世界で取組む SDG s について学ぶ機会になると考えます。

つきましては、本書状と共に標記のサイトのご案内とコロナ禍を勘案しバーチャル見学についても記載したチラシを添付しますので、学校へのご周知（配布）をお願いします。工場見学をご希望される場合は、学校から最寄りの工場へ直接ご連絡をお願いします。

なお、自動車リサイクル業界の工場見学受け入れは、2020 年度はコロナ禍で多くは中止になりましたが、ワクチン接種の普及に合わせて再開の動きも見られます。

本件に対するお問い合わせは RUM 事務局（鳥本）までお願いします。

〇RUM 事務局メール：

上記の案内チラシは、地域の小学校数を勘案しその 2 倍の枚数を同封します。社会科研究部会の先生方を中心にご案内いただければ幸いです。不足の時にはご一報ください。

*RUM アライアンスは自動車リサイクルの事業者により 2005 年に設立された NPO 法人です。

RUM の詳細はホームページ <https://www.rum-alliance.com/> をご覧ください。

自動車のパーツは鉄だけじゃない。

自動車が
資源の塊って
本当？

無駄なく再利用しなければもったいない！

資源のない日本には、そのための文化や技術があります。

主流のガソリン自動車は、2～3 万点の部品から作られ、使用されている資源の種類もその数だけあります。中でも多いのは鉄とアルミニウムで、次いで多いのが石油から作られるプラスチック部品、シートや内装といった繊維製品、またタイヤなどです。

自動車をかたちづくる部材の原材料の大半は輸入に頼っています。

走るために必要なガソリンの原料「石油」だけでなく、自動車を作るための素材原料も日本は大半を輸入に頼っています。

自動車の EV 化が進むと、ガソリン車以上に軽さが求められることから鉄より軽いアルミニウムと樹脂の使用割合が高くなりますが、それでもやはり、廃車車両の資源としての価値に変わりはありません。

鉄：74.7% (約 1,169Kg)

原材料の自給率 0% ※1

鉄・アルミ以外のレアメタルなどの金属類：1.7% (約 26Kg)

原材料の自給率 0% ※2

繊維：2.0% (約 32Kg)

原材料の自給率 2.4% ※3

ガラス：2.6% (約 41Kg)

原材料の自給率 30% ※4

その他：3.2% (約 50Kg)

原材料の自給率 — —

ゴム：3.4% (約 53Kg)

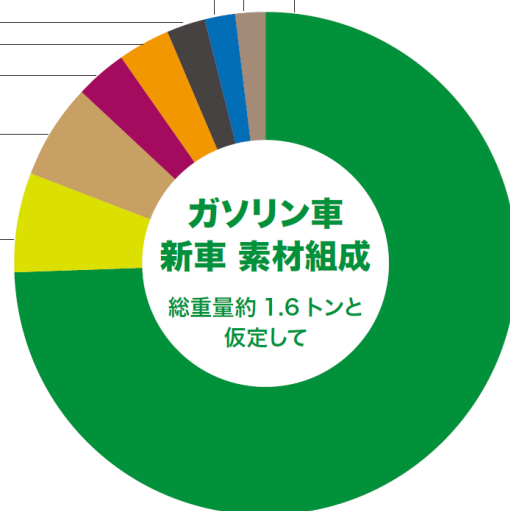
原材料の自給率 0% ※5

プラスチックなどの樹脂：6.1% (約 96Kg)

原材料の自給率 0.3% ※6

アルミニウム：6.3% (約 99Kg)

原材料の自給率 0.2% ※7



出典：再生資源利用等の進んだ自動車へのインセンティブ制度(仮称)骨子(案)より平成 29 年
平成 29 年 経済産業省 製造産業局自動車課
環境省 環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室

<原材料の自給率>の出典

※1：(一社)日本鉄鋼連盟「THE STEEL INDUSTRY OF JAPAN 2017」(但し、鉄鉱石と石炭の自給率) ※2：経済産業省「産業構造審議会報告」(但し、レアメタルの自給率)
※3：経済産業省「繊維産業の課題と経済産業省の取組」2018 年 ※4：広島県資料「自給率表」(原料は 100%自給可能なところ、材質により輸入素材が用いられている。)
※5：(公財)日本海事センター「わが国の暮らしと輸入依存率」(但し、天然ゴムの自給率) ※6：(公財)日本海事センター「わが国の暮らしと輸入依存率」(但し、原油の自給率)
※7：経済産業省「アルミニウム産業戦略」(但し、新地金の自給率)

本ポスターは、公益財団法人 自動車リサイクル高度化財団の助成を受けて制作しました。

制作：NPO法人 RUMアライアンス

<http://www.rum-alliance.com/>

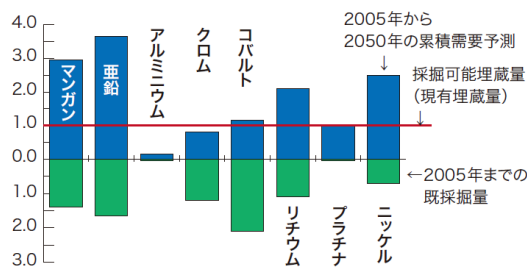
リサイクルは環境を守る取組です。

資源の有効活用だけでなく

エネルギーの節約、環境問題の解決手段にもなっています。

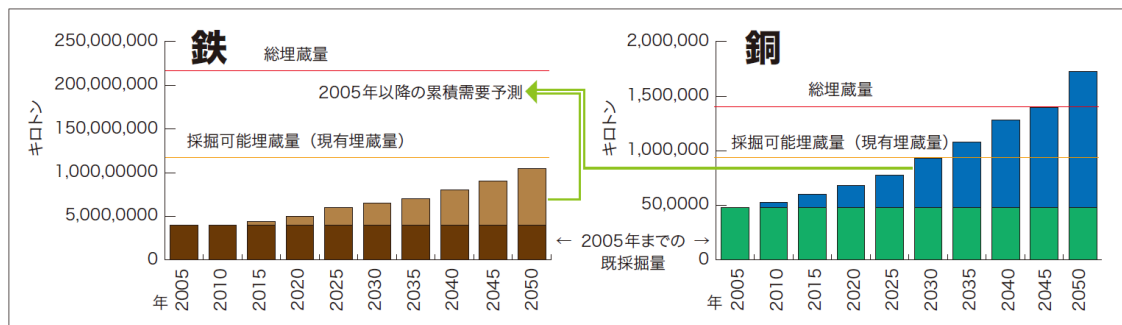
どうして
リサイクルは
大切？

資源は限りあるもの。廃車車両の資源化は、持続可能な自動車生産に不可欠です。



アルミニウムの原材料であるボーキサイトなどは埋蔵量が潤沢な一方、同じく自動車生産に不可欠な亜鉛、ニッケル、マンガン、リチウムなどは2050年までに累積使用量が埋蔵量を超えるといわれます。

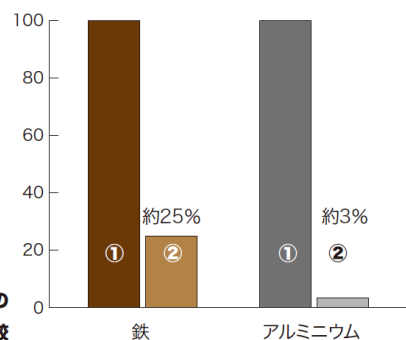
自動車にも多く使用されているそれら金属素材を確実にリサイクルすることは、持続可能な自動車生産にとって大変重要なことなのです。 ※出典：国立研究開発法人 物質・材料研究機構



リサイクルは、原材料から金属の地金を作るより
使用電力量とCO2排出量を大幅に削減できます。

アルミニウムや鉄をリサイクルによって生まれ変わらせるのに必要な電力は、原材料の鉱石から精錬する場合に比べ大幅に少なくすることができます。それは、電力をつくる際などに発生する地球温暖化ガスの排出を大きく減らすことにもつながる重要な取組でもあります。

- ① 鉱石から地金を作る際に発生する地球温暖化ガス(CO2)排出量を100とした場合の
② リサイクルによって金属を地金に再生させる際のCO2排出量の比較



捨てれば有害物質でもリサイクルすれば資源に生まれ変わる。それは自動車も同じです。

鉄やアルミニウムは放置すると長い時間をかけて土に帰り土壌汚染もほぼありません。しかし、同じ金属でも銅や鉛、クロムなどは、生活圏に放置されると重大な健康被害をもたらすことになります。

それら以外でも、シートや内装に使用される合成繊維、車内などの樹脂製構成パーツや塗装に使われた塗料などは石油由来であることから、廃棄は環境破壊を招きます。バッテリーの電解液やオイルも環境を汚染するなど、全てのパーツを廃車車両から回収し適切に処理することは、環境を守る上でも欠かせません。

自動車をリサイクルするということは、地球を汚さないことでもあるのです。

本ポスターは、公益財団法人 自動車リサイクル高度化財団の助成を受けて制作しました。

制作：NPO法人 RUMアライアンス

<http://www.rum-alliance.com/>

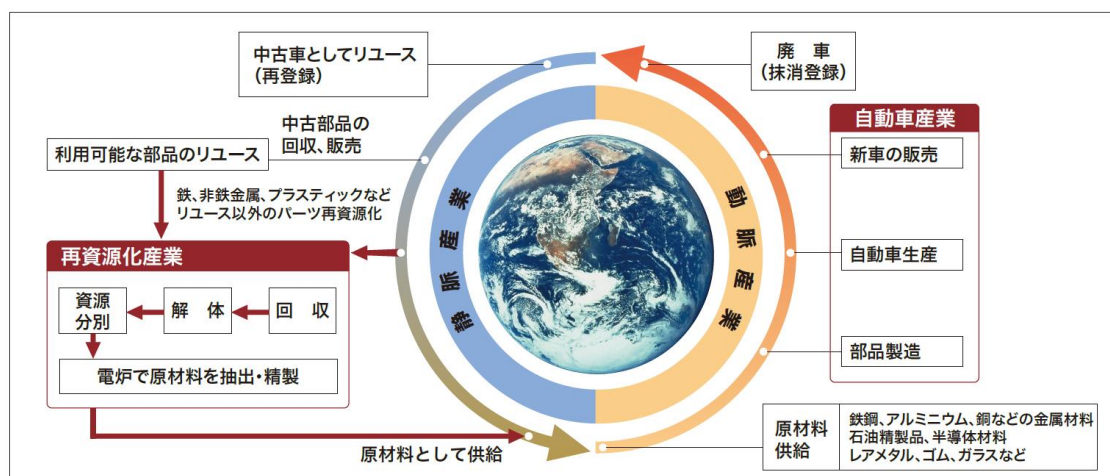
車の一生を把握する車検制度。

自動車の確実なリサイクルに欠かせないものは
廃車後の車を再資源化のプロセスへ確実に乗せることです。

廃車車両を
資源化する
仕組みって？

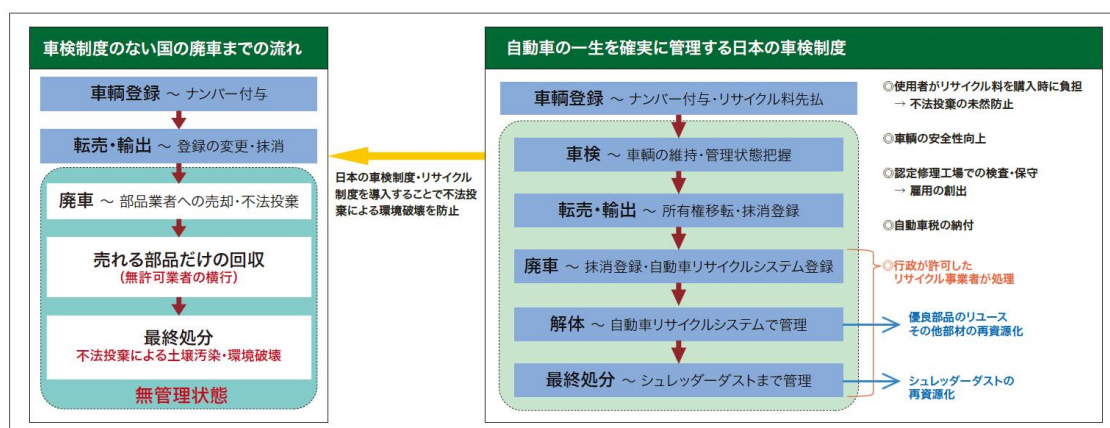
日本にあって多くの国にないもの。それは車検制度に裏打ちされたリサイクルシステムです。

車検制度は、言うなれば自動車の「ゆりかごから墓場まで」のプロセスを管理、把握する仕組みです。その制度によって、廃車後の車の処分まで把握でき、資源として処理することが容易になっています。そのためのルールは自動車リサイクル法という法律により決められており、廃車車両の引き取りから処分まで、行政が許可した事業者だけが行なうことで自動車リサイクルの徹底が図られています。



日本の優れたリサイクルシステム<車検制度>を世界に普及させ、環境保全と資源循環の流れを広めることは将来の地球にとって不可欠なことです。

日本では当然のことである車検制度は、多くの国で確立された制度ではなく、日本だからこそ、いち早く社会に定着させることができたといわれます。古くは江戸時代、社会は自給自足、リユース、最終的に不要になったものは資源として活用する文化が育まれていました。車検制度による車の循環型利用は、まさにその現代版なのです。



本ポスターは、公益財団法人 自動車リサイクル高度化財団の助成を受けて制作しました。

制作：NPO法人 RUMアライアンス

<http://www.rum-alliance.com/>

2021 年 5 月 25 日

工場見学受入ご担当者 様

特定非営利活動法人 RUM アライアンス
事務局 島本俊和

工場見学受入担当者意見交換会のご案内
—フリーな意見交換で交流を深めていただくために—

現在、コロナ禍は昨年を超える状況ですが、一方ワクチン接種の進展が期待されています。工場見学はもうしばらくは準備と小規模あるいはバーチャルでの受入れになるでしょう。

さて、高度化財団の採択事業として、「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトを<https://www.recycletour.com/>ご案内しておりますが、3 か年計画の 2 年目は、このサイトの活用を目指しております。見学を受入れる企業と来訪者、双方の増加を計る取組が求められます。

つきましては、計画 2 年目の取組をお知らせし、情報共有のために意見交換の場を設けたく、下記の意見交換会を企画しました。研修という改まった場ではなく、フリー討論の意見交換です。是非ご参加をお願いします。

なお、2021 年の担当者研修は 7 月と 11 月の 2 回予定しています。

記

工場見学受入担当者意見交換会

○日時：2021 年 6 月 9 日（水）13:00～14:00（60 分）

○Web 会議システム「ZOOM」使用

＊別紙「参加申込み」を頂いたら前日までに招待 URL をメールでお送りします。

＊詳細は、次ページをご覧ください。

○資料等

・参加お申込の方には、前日までに使用する資料をメール添付でお送りします。

○問合せ先：お問い合わせは次のメールおよび Tel をお願いします。



以上

○参加のお申込は別紙をご利用ください。

2021 年 7 月 12 日

工場見学受入ご担当者 様

NPO 法人 RUM アライアンス

代表理事 赤須洋一郎

工場見学受入担当者スキルアップ研修のご案内

— 来訪者満足度向上をめざし事例に学ぶ —

コロナ禍の収束はワクチン接種の進展如何にかかり、世論は五輪開催に向かっていますが、工場見学受入はもうしばらくは小規模あるいはバーチャルでの受入れになると思われます。

さて、高度化財団の採択事業として、「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトを <https://www.recycletour.com/> ご案内しており、3 か年計画の 2 年目は、このサイトの活用をめざしております。

つきましては、6 月に開催した意見交換会に続き 7 月は担当者の研修を下記の通り実施します。内容は前回研修の要望に沿い、来訪者受入れ時の説明手順などの進行シナリオを交換し、各社事例から学ぶことをめざします。是非ご参加をお願いします。

なお、2021 年の担当者研修は 7 月と 11 月の 2 回を予定しています。

記

工場見学受入担当者スキルアップ研修

○日時：2021 年 7 月 27 日（火）13:00～15:00（120 分）

○Web 会議システム「ZOOM」使用

・別紙「参加申込み」を頂いたら前日までに招待 URL をメールでお送りします。

＊詳細は、次ページをご覧ください。

○資料に関する参加者へのお願い

・参加お申込の方にはお願いです。7 月 23 日までに見学受入の際に使用する進行表（シナリオ）に類した資料で、研修当日の事例研究に使用可能な資料をお送りください。

・事例研究として頂戴した各社の進行表（シナリオ）につき意見交換します。

○問合せ先：お問合わせは次のメールおよび Tel をお願いします。



以上

○参加のお申込は別紙をご利用ください。

2021 年 11 月 11 日

工場見学受入ご担当者 様

NPO 法人 RUM アライアンス

代表理事 赤須洋一郎

工場見学受入担当者スキルアップ研修第 2 回のご案内

— 来訪者満足度の向上をめざす —

コロナに係る規制が解除され、10 月以降感染者数は劇的な減少を見せております。巷間では経済の活性化と人流復活が話題になっています。工場見学来訪者も 10 月以降は、徐々に動きがでてきました。

さて、高度化財団の採択事業として、「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトを制作、2 年目はこのサイトの活用をめざしております。

<https://www.recycletour.com/>

つきましては、先の連絡に続き今年度 2 回目研修の開催についてご案内します。ご参加を期待しております。

記

1. 見学受入担当者第 2 回研修の開催

○日時：2021 年 11 月 25 日（木）13:30～15:30（120 分）

○Web 会議システム「ZOOM」使用

・別紙「参加申込み」を頂いたら前日までに招待 URL をメールでお送りします。

*詳細は、次ページをご覧ください。

○討議事項：

- ・バーチャル見学会事例の研究
- ・教育関係者へのサイト案内と応対

（教育委員会へのサイト案内チラシをゆうパック便で送付します。添付書面参照）

- ・参加の皆様からリクエストのあった事項をテーマに加えます。

*多数のご参加を期待します。

*なお、10 月末の見学来訪者数につき未報告の方は至急お知らせください。

○問合せ先：お問い合わせは次のメールおよび Tel をお願いします。



○参加のお申込は別紙をご利用ください。

次ページ ⇒

別 紙

工場見学受入担当者 2021 年第 2 回研修

○日時：2021 年 11 月 25 日（木）13:30～15:30

○Web 会議システム「ZOOM」使用

＊お申込みいただいた方へは、前日までに ZOOM 招待 URL を送ります。

参加申込書

会社名：_____

連絡担当者部署名：_____

連絡担当者氏名：_____

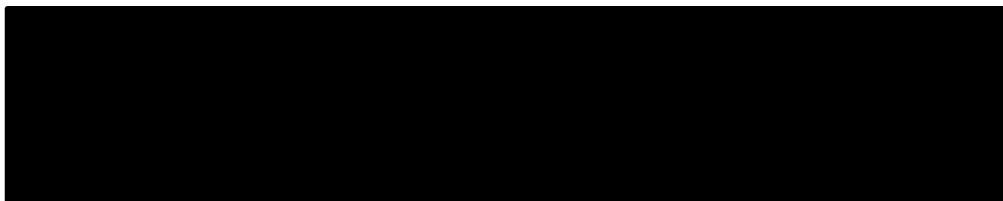
連絡 e-mail：_____

電話連絡先：_____

＊参加は 1 社 3 名までとします。

参加者氏名	所属部署名

○お申し込み先



以上

2022 年 3 月 2 日

工場見学受入ご担当者 様

特定非営利活動法人 RUM アライアンス
事務局 鳥本俊和

第 2 回工場見学受入担当者意見交換会のご案内

—フリーな意見交換で交流を深めていただくために—

コロナ禍は 3 年目に入り、ワクチン接種も 3 回目が進み、これからの収束が期待されています。工場見学はもうしばらく小規模あるいはオンライン見学（バーチャル見学）での受入れになると存じます。

さて、高度化財団の採択事業として、「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトを<https://www.recycletour.com/>ご案内しておりますが、お陰様で 3 か年計画の 2 年目はサイトの登録は 22 社（26 工場）に増加し、見学受入数は 4 月～12 月の合計で 7,046 名（内オンライン見学 4,224 名 60%）となっています。

本事業は後 1 年（2022 年度）を残すのみとなりましたが、計画 3 年目の取組をお知らせし、情報共有のために意見交換の場を設けたく、下記の意見交換会を企画しました。研修という改まった場ではなく、フリー討論の意見交換です。ご参加をお願いします。なお、2022 年度の担当者研修は、前年同様 7 月と 11 月の 2 回を予定しています。

2021 年度、第 2 回工場見学受入担当者意見交換会

○日時：2022 年 3 月 24 日（木）13:00～14:30（90 分）

○Web 会議システム「ZOOM」使用

＊別紙「参加申込み」を頂いたら前日までに招待 URL をメールでお送りします。

○資料等：この意見交換会を呼びかける方全員に、事前に自動車リサイクル周知の事業に取組む協働 3 団作成の以下の資料を郵送でお届けします。

・公益財団法人 自動車リサイクル促進センター（JARC）

「数字で考えるクルマのリサイクル」A4 版、観音開き 8 ページ。

・公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会（NACS）

「もっと自動車リサイクル」A5 版 16 ページ。

・NPO 法人 持続可能な社会をつくる元気ネット

「そうだったのか自動車リサイクル」A5 版 28 ページ。

○上記の資料を比較し、見学者と見学方式（リアル or オンライン）により説明時の資料の選択を試みようと考えています。各位の意見を頂戴します。

○参加お申込の方には、更に前日までに進行次第と追加資料をメールでお送りします。

○問合せ先：お問い合わせは以下のメールおよび Tel をお願いします。（次ページ下）

別 紙

2021 年度第 2 回工場見学受入担当者意見交換会

○日時：2022 年 3 月 24 日（木）13:00～14:30

○Web 会議システム「ZOOM」使用

参加申込書

会社名：_____

連絡担当者部署名：_____

連絡担当者氏名：_____

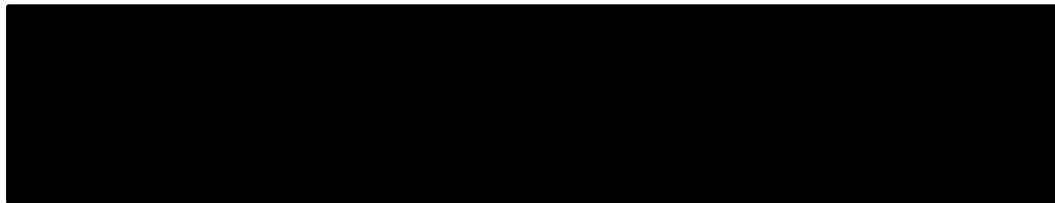
連絡 e-mail：_____

電話連絡先：_____

*参加は 1 社 3 名までとします。

参加者氏名	所属部署名

○お申し込み先



以上

2021年 (株)久保田オートパーツ リサイクル工場見学ー11月1日現在

日付	曜	学校	学年	時刻	人数内訳	合計
4月30日	金		5年生3クラス	9:40~11:10	児童98+先生5=103名	103
4月30日	金		4年生3クラス	13:30~15:00	児童108+先生4=112名	112
5月7日	金		5年生4クラス	9:30~11:10	児童150+先生6=156名	157
5月7日	金		5年生1クラス	13:30~14:30	児童21+先生2=23名	23
5月13日	木		5年生4クラス	13:30~15:00	児童158+先生6=164名	164
5月14日	金		5年生5クラス	9:45~11:15	児童174+先生6=180名	180
5月14日	金		5年生4クラス	13:30~15:00	児童132+先生7=137名	137
5月18日	火		高齢者	9:50~11:20	高齢者50+引率2=52名	52
5月19日	水		5年生4クラス	9:30~11:00	児童152+先生6=158名	158
5月20日	木		5年生3クラス	9:30~11:00	児童106+先生4=110名	110
5月21日	金		5年生2クラス	9:40~10:40	児童53+先生4=57名	57
5月21日	金		5~6年生	13:30~14:30	児童47+先生3=50名	50
5月28日	金		5年生4クラス	9:30~11:00	児童147+先生5=152名	152
5月28日	金		4年生3クラス	13:00~14:30	児童102+先生5=107名	107
6月11日	金		5年生2クラス	13:30~14:30	児童51+先生4=55名	55
6月11日	金		5年生2クラス	9:30~10:30	児童79+先生3=82名	82
6月15日	火		5年生4クラス	9:30~11:10	児童150+先生6=156名	157
6月16日	水		1年生	10:00~11:00	生徒31+先生4名~35名	35
6月25日	金		社長・常務・新入社員	14:00~15:00	11名	11
7月2日	金		5年生3クラス	9:30~11:00	児童102+先生4=108名	106
7月16日	金		5年生2クラス	9:40~10:40	児童53+先生4=57名	57
9月10日	金		高校生	10:00~11:00	生徒32+先生16=48名	48
9月29日	水		2年生	9:50~10:50	生徒10+先生10=20名	20
9月30日	木		高校生	13:30~14:30	生徒16+先生8=24名	24
10月15日	金		5年生1クラス	9:30~10:30	児童22+2=24名	24
10月21日	木		1年生	10:00~11:00	生徒17+10=27名	27
10月22日	金		5年生	9:30~10:30	児童50+3=53名	53
10月22日	金		5年生1クラス	13:30~14:30	児童26+2=28名	28
10月25日	月		5年生1クラス	9:30~10:30	児童14+2=16名	16
10月28日	木		5年生4クラス	10:00~11:30	児童126+先生5=131名	131
10月29日	金		5年生3クラス	9:30~11:00	児童85+先生5=90名	90
11月2日	火		5年生2クラス	9:30~10:30	児童63+先生3=66名	66
11月5日	金		5年生3クラス	9:30~11:00	児童95+先生4=99名	99
11月5日	金		5年生4クラス	13:00~14:30	児童135+5=140	140
11月9日	火		5年生4クラス	9:30~11:00	児童152+先生6=158名	158
11月10日	水		3年生4クラス	9:30~11:00	児童122+先生6=128名	128
11月11日	木		5年生3クラス	9:00~10:30	児童107+先生4=111名	111
11月12日	金		5年生4クラス	9:30~11:00	児童128+先生5=133名	133
11月12日	金		5年生2クラス	13:30~14:30	児童72+先生4=76名	76
11月16日	火		5年生3クラス	9:30~11:00	児童121+先生4=125名	125
11月17日	水		5年生3クラス	9:15~10:45	児童94+先生5=99名	99
11月19日	金		5年生1クラス	9:15~10:15	児童45+先生3=47名	45
11月22日	月		5年生2クラス	9:30~10:30	児童68+先生4=72名	72
11月26日	金		3年生3クラス	9:30~11:00	児童119名+先生5=124名	124
						3902

開催済
コロナでキャンセル